

## 御所ことば語彙の調査研究（続編，食物を除く）

井 之 口 有 一  
中 井 和 子  
堀 井 令 以 知

### は し が き (§ 183)

本稿は御所ことば（いわゆる女房詞）を究明して位相語研究に資するために，前稿「食物の部」（本誌「人文」第14号所載，約500語）の続編として，食物以外の全語彙（約960語）を分類収録したものである。

ここに収めた語彙は尼門跡で現用されている御所ことばを，尼門跡の言語生活の録音や方言調査表などによって調査するとともに，従来の女房詞文献所収のものを広く集成したものである。

所収語の出典（年代順）の略称は，次のとおりである。

海人藻芥〔「海人」と略称，1420年，§ 14〕 大上藤御名之事〔「大上」，1435～1490年ごろ，§ 15〕 日葡辞書〔「日ポ」，1603年，§ 16—1〕， 御湯殿の上の日記文明14年〔ゆどの文明14〕 同天正7年〔ゆどの天正7〕 同慶長7年〔ゆどの慶長7〕 同貞享3年〔ゆどの貞享3〕， 宝鏡寺日記慶安元年〔宝鏡日記慶安1〕 同2年〔宝鏡日記慶安2〕 同4年〔宝鏡日記慶安4〕 同承応2年〔宝鏡日記承応2〕 同明暦3年〔宝鏡日記明暦3〕 同万治3年〔宝鏡日記万治3〕， 大聖寺日記万治3年〔大聖日記万治3〕， 女重宝記〔「女重」，1692年，§ 17〕 女中言葉〔「女中」，1712年，§ 18〕 女言葉〔「女言」，1722年，§ 19〕 女中詞〔「女詞」，1722年ごろか，§ 20〕， 貞丈雑記〔「貞丈」，1763年，§ 153—1〕， 草むすび〔「草」，1715～1771年ごろか，§ 22〕， 物類称呼〔「物類」，1775年〕， 女諸礼綾錦〔「女礼」，1796年，§ 23〕 女万宝操鑑〔「女万」，1801年，§ 24〕， 静寛院宮御側日記〔「静」，1860年～1866年筆〕， 公家言葉集存〔「公家」，1944年，§ 25〕， 宮廷秘歌〔「宮」，1950年，§ 25—3〕 女官〔「女官」，1949年，§ 153—2〕， 隠語辞典〔「隠語」，1956年〕， 大聖寺門跡現用語〔「大聖」〕 宝鏡寺門跡現用語〔「宝鏡」〕 曇華院門跡現用語〔「曇華」〕。語彙の配列は次の8類に分け，各類中の語は五十音順（ただし恒例年中行事は月日順）にした。なお「しゃもじ」「おしゃもじ」のように，「お」のつくものと，そうでないものと両形のあるものの見出語は便宜に従った。また，語釈は文献所掲のままにしたので，説明不十分なものもある。

Ⅱ衣 類

Ⅲ住居・道具（1. 住 居，2. 道 具）

Ⅳ身体・病気

Ⅴ人倫・官職

Ⅵ動作・形状（1. 動 作，2. 形 状）

Ⅶ年中行事

Ⅷ その他 〔付〕 お文の慣用語

本稿の末尾に「五十音順索引」を付した。

なお（例）は文例，（解）は解説，（同）は同義語，（関）は関係語の略称である。

この研究に，特に有益な助言を賜った大聖寺門跡石野慈栄様・宝鏡寺門跡花山院慈薫様・是沢恭三博士・江馬務教授・池上禎造教授に感謝の意を表する。

（本研究は昭和33年度文部省科学研究費交付金「各個研究」によるものの一部である。なお本稿に対し，お気付きの点は筆者井之口有一：京都市北区紫野南舟岡84-24までご高教に預りたい。）

## Ⅱ 衣 類 (§ 184)

- 504 **あぶらとり** 綿ぼうし〔女中・女言〕（同） 505 **おあぶらとり**〔女詞〕  
 506 **いたのもの** どんす・<sup>しゅちん</sup>繻珍の類〔静・公家〕（同） 507 **おいた**〔静〕  
 508 **うぐいす** 振袖〔女礼〕  
 509 **うぐいす** <sup>あわせ</sup>袷〔女中・女言・女詞・静〕（同） 510 **うすぎぬ**〔女詞〕 511 **おみあわせ**  
 〔公家・女官〕（宮様以上に使用） 512 **くさぎぬ**〔女詞〕 513 **なわたきぬ**〔女詞〕  
 514 **うすぎぬ** <sup>おおい</sup>被〔女詞〕（同） 515 **うすむすび**〔女中〕 516 **ひとえぎぬ**〔女中〕  
 517 **えちご** 越後上布〔公家〕（同） 518 **おえちご**〔静〕  
 519 **おあいじろ** お間白は白繻子に紅絹裏をつけた衣装〔静〕  
 520 **おうえはかし** 上着〔女中〕（同） 521 **おうわめし**〔女詞〕  
 522 **おかかえ** 細帯・丸ぐけ帯〔静・公家・女官〕（解） かかえ帯の略，帯の上にかかえるようにしめるからか。かかえ帯はしごき帯のこと〔貞丈〕。腰帯を畿内でかかえ帯という〔物類〕  
 523 **おかさね** ひとえもの〔女中・女言・女詞〕（同） 524 **おひとえ**〔公家〕 525 **おみこり**〔女詞〕 526 **おみとり**〔女中・女言・公家，隠語一（室町時代）〕  
 527 **おくくり** 小袖綿〔女中〕（同） 528 **おなか**〔女中・女言〕（545参照）  
 529 **おさらし** かたびら〔公家〕（同） 530 **おみすかし**〔女中・女言・女詞〕  
 531 **おしたのもの** 「お下の物」は<sup>むつき</sup>襦袢〔公家〕（解） 目上の人に対していう。〔大聖〕では，ゆもじを「おしたのもの」という。（同） 532 **おむす**〔公家〕  
 533 **おしためし** 「お下召し」は下着〔女中・女言・女詞〕  
 534 **おしとね** お褥はふとん〔公家〕（同） 535 **おうわしき**〔女中・女言・女詞〕 536 **およるのもの**〔女言・静〕 537 **よるのもの**〔女礼〕（613参照）（関） 538 **おしとね** 座ふとん〔静・公家〕（解） 「掛ふとん」のことを「おかけ」とも〔宮〕 539 **しとね**〔女官〕  
 540 **おしゅす** <sup>しゅす</sup>繻子〔大上〕  
 541 **おじょう** 寝具〔静・公家〕（同） 542 **おとこ**〔公家〕 542-2 **おじゅく**（お床）〔宮〕  
 543 **おしょうぞく** 「お装束」は<sup>ほう</sup>袍，束帯用の上衣〔公家・女官〕

- 543-2 **おてつ** 「お鉄」は鉄瓶〔隠語一(江戸時代)〕
- 544 **おでんち** ちゃんちゃん〔公家〕
- 545 **おなか** 綿〔ゆどの・宝鏡日記・女重・女万・静・公家・女官〕(528・866参照) (例) くら  
の頭よりきくの御なかまいる。〔ゆどの文明14・9・8〕女院御所より御ふく(中略)御なかまい  
る也。〔宝鏡日記慶安1・12・19〕女一の宮ノ御かたへ御七夜の御しうぎ御なか。御まなまい  
る。〔ゆどの貞享3・1・21〕(同) 546 **やわやわ**〔公家〕(824参照) (関) 546-2 **ごふくめ**  
木綿〔隠語一(江戸時代)〕
- 547 **おなかいれ** 綿入れ〔公家・女官〕
- 548 **おなかめし** <sup>あいだぎ</sup>間衣〔女中・女詞〕(同) 549 **おまめし** 「お間召し」は普断着か〔静〕
- 550 **おぬいもの** 裁縫〔大聖〕
- 551 **おねめし** ねまき〔大聖〕(関) 552 **とおんぞ**(小寝巻)〔女中・女言・女詞〕 553 **な  
かぶか**(小寝巻)〔女中・女言・女詞〕
- 554 **おばんたる** ブロース〔宮〕
- 555 **おひよ** 布子〔女礼〕(同) 555-2 **おひえ** 布子・木棉の綿入れ〔隠語一(江戸時代)〕
- 556 **おひよ** <sup>じゆばん</sup>襦袢〔公家・大聖, 隠語一(江戸時代)〕(関) 557 **おかくしもの**(<sup>かみ</sup>お上の襦袢)  
〔公家〕 558 **おながひよ**(長襦袢)〔公家〕 559 **ながひよ**(長襦袢)〔公家〕 560 **みじかひよ**  
(半襦袢)〔宮〕
- 561 **おひわだ** ひわだ色の着物〔静〕
- 562 **おふる** 古着〔日ボ〕
- 563 **おまわし** 腰巻〔女中・女詞〕(574・742参照) (同) 563-2 **おとし**〔隠語一(江戸時代)〕
- 564 **おみかけ** 浴衣〔女中・女詞〕(同) 565 **おみぬぐい**〔女中・女言〕
- 564-2 **おみすかし** 「おみ透し」は「かたびら」〔隠語一(室町時代)〕
- 567 **おめし** 着物〔公家〕(同) 568 **おふく**〔宝鏡日記〕(例) 院女御所より御ふくま  
いる。〔宝鏡日記承応2・12・26〕 569 **おめしもの**(目上に対していう)〔公家・女官〕 570 **ご  
ふく**(<sup>かみ</sup>お上のもの)〔公家〕(関) 571 **むもの**(模様なしの着物)〔静〕 572 **めしもの**(高貴な  
人の衣服, はきもの, 811参照) 572-2 **めす**(着る)〔隠語一(室町時代)〕〔日ボ・公家〕
- 573 **おもじ** 帯〔ゆどの・宝鏡日記・女重・女中・女言・女礼・女万・静・公家・女官, 隠語一(室  
町時代)〕(例) おもじ二すぢまいる。〔宝鏡日記慶安2・1・5〕(同) 574 **おまわし**〔女中・女  
言・女詞〕(563・742参照), 575 **おみおび**〔女中・女詞・女礼・公家, 隠語一(江戸時代)〕 576 **お  
んおもじ**〔ゆどの〕(例) じゆごうの御かた御あや。御ねもじ。御おもじ。〔ゆどの慶長3・  
12・30〕(解) 大聖寺では, 自分のは「おび」, オカミのは「おみおび」という。宮様以下の  
目上には「おもじ」という。(§ 25—2, 注105・同202) 577 **おぼそ**(隠語一(室町時代)〕(関)  
577-2 **おまおもじ**(お間で用いる帯, 629参照) 578 **さげおもじ**〔大聖日記〕(例) さげおも  
じ一すぢおたぎへ二つつかさされ候〔大聖日記万治3・1・7〕
- 579 **おもせいろ** 紅粉染, 緋むく〔女中・女言・女詞〕(同) 580 **かいねり**〔女中・女言・女

- 詞〕(関) 581 **ひのいた** (緋色の板染のもの)〔静〕
- 582 **おんぞ** 小袖〔女中・女詞〕(同) 583 **かいとり**〔女詞〕 584 **きるもの**〔女礼〕 585 **ごふく**〔女重・女礼〕 586 **つおなり**〔女中・女詞〕 587 **ほうぎ**〔女中・女詞〕
- 587-2 **くれはとり** 絹〔女中〕, 薄絹〔女言〕, 綾類の織物〔貞丈〕(解) くれはとりは「あや」の枕詞故に綾のことをいう。
- 588 **したのもの** 男女のふんどし〔公家・女官・大聖〕(610参照) (関) 589 **おいまき** (お湯巻は女子のふんどし)〔女官〕(解)「おしたのもの」(531)参照。一般には「ゆもじ」と。
- 590 **しまかけ** 縞かみしも〔公家〕(603参照)
- 591 **しろかさね** 白むく〔女中・女言・女詞〕
- 592 **すましもの** 洗濯物〔女中・女言・女詞〕(関) 1080 **おすすぎ** (器物を洗うこと)〔公家・大聖〕 1081 **おすまし** (衣類等を洗うこと)〔静・公家・女官・大聖〕 595 **おゆすぎ** (洗たく)〔大聖・女官〕 596 **すましはり** (洗いはり)〔静〕
- 597 **ねもじ** ねり絹〔ゆどの・禁裡女房内々記・洞中年中行事・女中・女言・静・公家・隠語一(江戸時代)〕(例) 中宮の御方へねもじの御ふく。〔ゆどの貞享3・9・9〕(762参照) (同) 598 **おねもじ**〔ゆどの〕 (例) じゆごうの御かたへ御すすしうらの御ねもじ。〔ゆどの慶長3・5・5〕
- 599 **おねり**〔大聖〕 600 **ねり**〔ゆどの〕 (例) ねりは左大将のふふさの卿。〔ゆどの慶長3・1・1〕(390参照), 601 **ねんもじ**〔日ボ〕 (関) 602 **おやわらかなるもの**〔絹物〕〔静〕 603 **しまかけ**〔絹物〕〔静〕
- 604 **まつかさね** 浅黄むく〔女中・女言・女詞〕 (関) 605 **やまぶき** (「山吹」は黄むくのこと)〔女中・女言・女詞〕
- 606 **まるわた** 丸綿帽子〔宝鏡日記〕
- 607 **みずとり** 手拭〔女中・女言・女詞〕
- 608 **めゆい** かのこ〔女中・女言・女詞〕(解) 鹿の子染のこと。「貞丈」に「目結は回の如き形のしぼり」とある。平家物語に「目ゆひの帷に、染附けのゆまきして」(重衡海道上)と。
- 609 **ゆもじ** 湯具〔女重・女中・女言・女詞・女万・女礼, 隠語一(室町時代)〕(解) 一般に腰巻の意にも, 湯文字をなまって「イモジ」ともいう。(同) 611 **かとり**〔女中・女言・女詞〕
- 612 **ふたの**〔女言〕
- 613 **よるのもの** 夜着〔ゆどの・日ボ・女重・女中・女言・女詞・女万, 隠語一(室町時代)〕(637参照) (例) かたの宮の御方御はなむけに(中略)御よるのもの。御ふとんまいらせられ候。〔ゆどの貞享3・7・17〕(同) 614 **およるのもの**〔女言・静〕 615 **かいまき** (掻巻)〔女官〕

### Ⅲ 住居・道具類 (§ 185)

#### 1. 住居 (§ 186)

- 616 **おきよどころ** 御清所。御料の調理所〔公家〕

- 617 **おくろ** かまど 〔女詞〕, 672参照
- 619 **おとう** 便所 〔公家・大聖・女官〕 (解) 東司にもとづく。禪家でもいう (853参照)。京ことばでコーヤサン (かわやさんの転か) という。 (同) 620 **おまなか** 〔日ボ〕 621 **おてすまし** 〔宮〕 622 **かんじょ** (閑所) 〔義経記・女中・女言・女詞・公家〕 623 **こうか** 〔日ボ・女中・女詞〕 (閑) 624 **おちょうずどころ** (お手水所は御料のかわや) 〔公家〕 625 **おとうば** (陛下の便所) 〔宮〕 626 **よそよそ** (臣下の便所) 〔宮〕
- 627 **おないぎ** 「お内儀」は「表」に対する奥の意。〔大聖日記・宝鏡日記〕 (例) 御ないぎにて御大めん 〔対面〕 御さかづき下さる。〔宝鏡日記万治3・1・3〕
- 628 **おまし** 座敷 〔女中・女官・女詞・静, 隠語一(室町時代)〕 古語「ます」(居る・有る)にもとづくか。 (同) 629 **おま** 〔大聖〕 (解) 大聖寺では座敷を「おま」(御間), 居室を「いま」(居間)と区別する。 (閑) 630 **おじょうぐち** (お錠口) 〔静〕 631 **おしんじょ** (寢室) 〔宮〕 632 **おひろしき** (広座敷, 女子の詰所) 〔静〕 633 **つぼねぐち** (局口は女官・女中の出入口) 〔公家〕
- 634 **くろと** 黒戸御所 〔ゆどの〕 (例) 上せうゐんさまのすけに。くろとのしやうじはらせらるゝ。 (ゆどの・天正7・9・24) (解) 仏壇のことも, 女房詞で「くろと」という。
- 635 **なかつぼ** 中壺は中庭のこと 〔宮〕
2. 道 具 (§ 187)
- 636 **いか** 紙鳶<sup>たこ</sup> 〔大聖・宝鏡〕 (解) 関西方言でも。魚の「いか」の形にもとづく。
- 637 **うぐいす** 切匙, すり鉢の内側についたものを落す道具 〔女重・女中・女言・女詞・女万〕, 509参照
- 638 **おらっそく** ろうそく 〔大上〕 (同) 639 **らっそく** 〔宝鏡日記〕 (例) らつそくまいる。〔宝鏡日記承応2・12・11〕 640 **おろう** 〔宝鏡〕
- 641 **おあかり** 燈火具, 燈明またはあんどん, 電気 〔公家・女官〕 (同) 642 **おあかし** 〔女中・女詞・女官〕 643 **おとぼし** 〔女中・隠語一(江戸時代)〕 644 **おみあかし** 〔女中・女言・女詞〕 645 **おおとのあぶら** (大殿油) 〔大上・女官〕 646 **とのあぶら** (ねやのもやし) 〔女中・女言・女詞〕 (閑) 647 **おみつあし** (三脚燭台) 〔宮・女官〕 648 **みつあし** (三脚燭台, 810参照) 〔公家〕
- 646 **おあかり** 燈道具, またはあんどん, 電燈 〔公家・女官〕 (閑) 647 **おみつあし** (三脚燭台) 〔宮・女官〕 648 **みつあし** (三脚燭台) 〔公家〕 810参照
- 649 **おあくもり** 灰皿 〔公家〕
- 650 **おあさもの** 傘 〔女中・女言・女詞〕
- 651 **おいろ** 「御色」は「紅」 〔女重・女中・女言・女詞・草・女万・静・大聖・宝鏡〕 (同) 652 **みやこいろ** 〔女中・女言〕 653 **すえつむくさ** 〔女中・女言〕 (解) 〔草〕には「古くはいろといひたるは鈍色の事なるべし。(中略)されば今べにをいろといふ事、いとあさましくいまはしき事なり。」と。 (閑) 654 **おいろふで** (紅筆) 〔女中・女言・女詞〕

- 655 **おおぎょ** 大清。陛下の食物・品物など〔公家〕 (関) 656 **きよし** (お祭りの御料)〔公家〕 657 **ちゅうぎょ** (中清。臣下の御料)〔公家・大聖〕
- 658 **おかかり** 禁中の広場〔ゆどの〕 (例) 御かゝりにてありしかども。雨ふるによりて。こんろうの下にてまはせらるゝ。〔ゆどの文明14・1・26〕
- 659 **おかけにおい** 匂い袋〔女詞〕
- 660 **おかぞと** ふか皿〔公家〕
- 661 **おかちょう** かや(蚊帳)〔ゆどの・女中・女言・女詞〕 (例) あんぜん寺どのより御ふだ。まめあめ一つゝみまいる。御かちやうつらるゝ。〔ゆどの天正7・4・6〕 (同) 662 **かちょう**〔女重・女万〕 663 **かやさ**〔京女〕 664 **きぬのいえ**〔女中・女言・女詞〕 (関) 665 **おこんちよう** (どんす蚊帳)〔女中・女詞〕 666 **おどんちょう** (どんす蚊帳)〔女言〕 667 **どんちょう** (どんす蚊帳)〔女重・女中・女万〕 668 **おめんちょう** (ちりめん蚊帳)〔女言・女詞〕 669 **めんちよう** (木綿蚊帳)〔女重・女中・女万〕
- 670 **おきぬうつし** 「お絹うつし」は「きぬた」〔女中・女言〕 (同) 671 **おきぬまき**〔女中・女言〕
- 672 **おくろ** 釜〔女中〕, 617参照 (同) 673 **くろ** (鍋・釜)〔女重・女礼・女万〕 674 **おくろもの** (鍋)〔女詞〕 675 **おかんくろ** (かん鍋)〔女詞〕 676 **くろもの** (かん鍋)〔大上・日ボ・女中・女言・貞丈・草, 隠語一(室町時代)〕 677 **かんくろ** (かん鍋)〔女重・女中・女言・女万〕
- 678 **おけたれ** かみそり〔女重・女言・女詞・女万・大聖〕 (解) 婦人用の剃刀, 小さいものを畿内東部でいう〔物類〕。婦人がかみそりを用いたのは江戸時代からか。 (同) 679 **おけた**〔公家〕 680 **けたり**〔女官〕 681 **けたれ**〔女中〕 682 **たれ**〔大聖〕
- 683 **おこし** 御輿。乗物〔女重・女中・女言・女詞・女万・静〕 (関) 684 **おめし** (お召し車)〔宮〕 685 **めす** (乗る)〔女重・女万・静・大聖・隠語一(室町時代)〕
- 686 **おこしのもの** 刀〔女中・女詞〕 (関) 687 **おそえこ** (小刀)〔女言・女詞〕 688 **おつばがたな** (短刀)〔女言・女詞〕 689 **おはきがたな** (お佩き刀は脇差)〔女中〕 690 **おわきがたな** (脇差)〔女詞〕 691 **そえこ** (小刀)〔女中〕
- 692 **おこた** こたつ〔公家・女官〕 (関) 693 **きり** (足ごたつ)〔日ボ〕
- 694 **おざっし** 御雑紙は「鼻紙」〔女重・女中, 隠語一(江戸時代)〕 (同) 695 **ざっし**〔女言・女万〕 597 **たとうがみ**〔女中・女詞〕
- 698 **おしきたえ** 枕〔女詞〕 (同) 699 **しきたえ**〔女中・女言〕
- 700 **おしまつき** 机〔女中・女言・女詞〕
- 701 **おしゃもじ** シャクシ〔女中・女詞〕 (同) 702 **おゆがみ**〔日ボ・女中・女言〕 702-2 **おゆるみ**〔隠語一(室町時代)〕 703 **しゃもじ**〔女重・女礼・女万・公家・大聖・宝鏡, 隠語一(室町時代)〕 (解) 普通語化した御所ことば(ただし東北地方では味噌汁用で, ご飯用のオヘラと区別)
- 704 **おすみ** 墨〔大上・宝鏡〕
- 705 **おせせり** 楊子〔女中〕 (解) 小楊板。「せせる」の名詞形にもとづく。784参照。

- 706 **おたから** <sup>ぜに</sup> 銭〔公家・女官・大聖・宝鏡〕(同) 707 **おあし**〔大上・日ボ・大聖日記・鏡室日記・女中・女言・女詞・貞丈・女礼〕708 **おわし**〔女重〕(解)「おあし」は、大聖寺・宝鏡寺では現用しない。709 **ちょうもく**(鳥目)〔公家・女官・大聖〕710 **ゆくえ**〔大上・貞丈〕711 **りょうそく**(料足)〔宝鏡日記〕(例)御ともにみなへれやうそく下さるゝ。〔宝鏡日記万治3・1・8〕(関) 712 **おかわり**(代価)〔公家・大聖〕713 **こがね**(金子)〔女中・女言・静〕714 **しろがね**〔女中・女言・静〕
- 715 **おたたみ** 畳〔大上〕(解)宝鏡寺では、「おたたみ」は御所・御殿のをいい、自分の居室のには「お」をつけない。
- 716 **おつめとり** 爪切り〔女中・女詞〕
- 717 **おじょうき** 「お定器」は「お椀」〔女中・女言・女詞、隠語一(室町時代)〕
- 718 **おなが** 長のし〔公家〕(同) 719 **ほそひろめ**〔女詞〕
- 720 **おなつかし** 櫛〔女中・女言・女詞〕
- 720-2 **おなで** 「お撫で」は「ほうき」〔隠語一(室町時代)〕
- 721 **おなでも** お撫物は祓の具。身をなでて、けがれや禍を払いすてるための紙製の人形または衣服。〔ゆどの・宝鏡日記〕(例)しやうれん院どのへなで物いださる。〔ゆどの文明14・8・7〕
- 722 **おのまつ** 歌がるた〔女重〕(同) 723 **ついまつ**〔女中・女言〕
- 724 **おみはぐろ** 齒につける鉄漿<sup>かお</sup>〔女中・女言・女詞・静・大聖〕おみは宮様以上に(同) 725 **おうしみず**〔女中・女言・女詞〕726 **すみはぐろ**〔女中・女言・女詞〕727 **つけかね**〔女中・女言・女詞〕728 **つくるかね**〔大上・貞丈・女官〕729 **ぬきすみず**〔女中・女言・女詞〕730 **はもじ**〔隠語一和歌山婦人一(明治時代)〕(関)731 **みやこまわり**(かねつけ筆)〔女中・女言・女詞〕732 **おはぐろする**(かねをつける)〔日ボ・大聖〕733 **かねあげる**(かねをつける)〔女官〕
- 734 **おはち** 飯鉢〔女中・女言・女詞・公家〕(同)735 **おみおあい**〔宮〕736 **おひつ**〔公家〕
- 737 **おはながら** 香奠〔女中〕
- 738 **おはもの** お刀物は「ほうちょう」〔大聖〕
- 739 **おふで** 筆〔大上・宝鏡〕(同) 740 **みずくき**〔女中・女言・女詞、隠語一(室町時代)〕
- 741 **おまゆとり** 毛抜〔女中・女詞〕(解)「お眉毛とり」にもとづく。
- 742 **おまわし** すり鉢〔女中・女言、隠語一(室町時代)〕(563・574参照)(同) 743 **おめぐり**〔女詞、隠語一(室町時代)〕(747参照) 744 **すりすり**〔大聖〕745 **ししじ**〔女詞〕746 **しらじ**〔女中・物類(東国方言)〕747 **はちのみ**〔女詞〕
- 748 **おめぐり** すりこぎ〔女言〕〔長野・駿河・尾張の方言〕(同) 749 **おめぐりぼう**〔越後方言〕750 **こがらし**〔女重・女中・女言・女礼、隠語一(江戸時代)〕751 **はちのみ**〔日ボ・女中・女詞〕752 **ますぎ**〔津軽方言〕753 **まわしぎ**〔女中、越後・仙台方言〕754 **みぐり**〔出雲方言〕755 **めぐり**〔尾張・越後・長野・駿河・美濃・伯耆・出雲方言〕756 **めぐりこぎ**〔出羽方言〕757 **めぐりぼう**〔上総・駿河・越後方言〕

- 758 **おみはし** 箸〔公家・大聖〕(同) 759 **てもと**〔日ボ〕(解)「おてもと」は普通語として使用(関) 760 **こうがいのはし**(杉ばし)〔女中・女言・女万〕 761 **こうばいのはし**(杉ばし)〔女重〕 762 **ねもじのはし**(杉ばし)〔女重〕 763 **ねもじはし**(杉ばし)〔女中〕 764 **ねもじ**(白ばし)〔女万〕597参照
- 765 **おみや** みやげ〔ゆどの・宝鏡日記・女重・女中・女言・静・公家・大聖, 隠語一(室町時代)]  
(例) 御みやにせい侍しや<sup>2</sup>よりつぼ進上。〔宝鏡日記慶安 1・7・16〕きくてい大納言よりならの御みやしん上。〔ゆどの貞享 3・2・14〕まんじゆ院の宮より江戸御みやにらうそく二百てう。〔ゆどの貞享 3・6・2〕(同) 766 **おみやもの**〔静〕 767 **おみやどころ**〔静〕 768 **おたむけもの**〔静〕
- 769 **かもいのたま** 念珠〔女中・女言・女詞, 隠語一(室町時代)]
- 770 **かもじ** かつら(髷)〔女中・女言・女詞〕(833-2・918・960 参照) (関) 771 **ながつけ**(長かもじ)〔女中・女詞〕 772 **ながかつら**(長かもじ)〔女中・女詞〕
- 773 **からこ** 手洗糠〔日ボ〕
- 774 **かわほり** 扇子〔女中・女言〕(同) 775 **おかわほり**〔女詞〕 776 **おすえ**〔公家〕 777 **おせんす**〔公家・大聖〕 778 **おみおうぎ**〔女言・女詞・大聖〕(解)「おみおうぎ」は大聖寺で宮様以上用の扇をいう。 779 **てなれぐさ**〔女中〕(関) 780 **ぼんぼり**(ぼんぼりの型の扇)  
(例) 御ちの人より丸わたぼんぼりまいる。〔宝鏡日記・万治 3・1・25〕
- 781 **くちがわり** 「口代り」は簡単な手紙。口上。(注338)
- 782 **くぎょう** けんしょう(穴)を四方にあけた三方用のもの〔大上〕(同) 783 **しほう**〔大上〕
- 784 **くろもじ** 黒文字は黒木の小楊枝〔隠語一(江戸時代)] 705参照。
- 785 **とぎいた** 胡木板。はごいた〔ゆどの・大聖〕(例) 大納言どのへ御とぎいた。御とぎのこまいらせらるゝ。〔ゆどの文明14・12・30〕(関) 786 **とぎのこ**(羽根)〔ゆどの・同上〕
- 787 **こまつ** まないた〔大聖〕
- 788 **しゅんかん** 「筭干」は深い茶碗〔公家〕(関) 789 **てんもく**(茶わん)〔大上〕
- 790 **じんこばこ** 「塵小箱」はちり箱〔公家〕
- 791 **ずり** 物を運搬する舟形の運搬具〔穂稗女官談〕
- 792 **せきもり** ざる〔女重・女中・女言・女詞・女礼・公家・大聖, 隠語一(江戸時代)](解)  
関守。必要なものは通さぬから。(同) 793 **おとなし**〔女中・女言・女詞〕
- 794 **たまのいけ** 「玉の池」は硯〔女中・女言・女詞〕(同) 795 **おすずり**〔大上・宝鏡〕
- 796 **みずくら**〔女中・女言・女詞〕(関) 797 **こがい**(硯台)〔公家・大聖〕
- 798 **つくつく** 臼〔大上・ゆどの, 貞丈・公家・大聖, 隠語一(室町時代)](例) 夕かた御つくく御御引なをしの御袖おほはれてつきまいらせらるゝ。〔ゆどの貞享3・10・12〕(関)
- 799 **なかぼそ**(きね)〔大上・貞丈・隠語一(室町時代)](解) 昔の杵は真中が細まっていて、そこを握ってついた。



- 800 **ながさお** 「長棹」は「長持」〔公家・女官〕（同） 801 **おながさお** 〔大聖・穂積女官談〕
- 802 **ななこ** お手玉 〔大聖〕
- 803 **においかけ** 匂懸。伏せかご〔女中・女言・女詞〕（関） 804 **においのもの**（香爐）〔女中・女言〕
- 805 **ねりがい** 練櫓。かじに代用する大きな櫓。酒造りにも用いる。〔ゆどの〕（例）松の尾よりねりがいいつものごとくまいる。〔ゆどの慶長3・1・15〕
- 806 **のもじ** 糊 〔大聖〕（解）食べるのり（海苔）は単に「のり」という〔大聖〕（501参照）
- 807 **はくちょう** 白鳥徳利 〔ゆどの〕（例）ほりのけんもつはくてうしん上申。〔ゆどの慶長3・3・15〕
- 807-2 **はもじ** 歯ぶらし（隠語—栃木、婦人—（大正時代））
- 808 **ひさげ** 提子。銚子の補助に用いられた金属製の鉋つるのある小鍋形の酒入れ器〔ゆどの・宝鏡日記〕（例）くらま御ふだ御てうしひさげ＝てまいる。〔宝鏡日記万治3・1・11〕御てうしひさげすけ殿よりまいらせらるゝ。〔ゆどの慶長3・2・14〕
- 809 **ふうもの** 消息文 〔静〕（同） 809-2 **ふもじ** 〔隠語—（江戸時代）〕
- 810 **みつあし** 三脚は「かなわ」（鼎）〔大上、隠語—（室町時代）〕（648参照）
- 811 **めしもの** 履物〔公家・女官〕（572参照）（関） 812 **げげ**（草履）〔日ボ〕 813 **こんどう**（草履）〔公家〕 814 **とぼとぼ**（ぼつくり）〔公家〕
- 814-2 **よほう** 柎〔女重・女中・女言・女万・隠語—（江戸時代）〕
- 815 **ゆすりつき** 「泔びん坏」は髪をなでつけるに用いる水を入れる器。びんだらい。〔蜻蛉上・女中・女言・女詞〕
- 816 **りょうし** 料紙は「紙」〔女中・女言・女詞〕（同） 817 **おりょうし** 〔静〕（関） 818 **とすぎ**（小杉原）〔大聖〕 819 **こたか**（小高檀紙の略）〔ゆどの〕（例）すけの宮ノ御方より小たか廿でうまいる。〔ゆどの貞享3・3・27〕 820 **すいば**（相原紙）〔海人・女中・女言・女詞〕 821 **すぎすぎ**（相原紙）〔女中・女言・女詞〕 822 **ひき**（引合紙、檀紙）〔海人・ゆどの・宝鏡日記・女中・女詞〕（例）ひき十でふしん上。〔ゆどの天正7・4・5〕ひき卅ば進上〔宝鏡日記慶安2・1・1〕
- 823 **ひきあわせ**（引合紙）〔女中・女言・女詞〕 824 **やわやわ**（芳野紙）〔ゆどの・女中・女言・女詞、隠語—（室町時代）〕（例）御たのむとてやわ〜廿そくまいる。〔ゆどの慶長3・7・26〕
- 825 **りょうしばこ** 「料紙箱」は「文庫」〔女中・女言・女詞〕

#### IV 身体・病気 (§ 188)

- 826 **いできもの** ふきでもの・できもの 〔ゆどの〕（例）みやの御かた御いできものにはかに御わづらいありて。〔ゆどの天正7・5・8〕
- 827 **いど** いど（居処）は尻〔日ボ〕（同） 828 **おいど**〔日ボ〕 829 **おえど**〔大聖〕（例）子どもでおえどが見えるくらい、ひざぼんだいて坐りますわな。〔大聖〕（解）「御居処」に

もとづく。町方でもいう。(オイドカケは尻からげ)。

830 **おあしのもの** 脚の腫物か〔ゆどの〕(例)御あしの物にひる御かゝあり。〔ゆどの文明14・4・2〕

831 **おえり** 肩〔静〕

832 **おぐし** 髪〔ゆどの・日ボ・女中・女言・女詞・女礼・静・大聖・女官, 隠語一(江戸時代)〕

(例)御けづり御ぐし中内。〔ゆどの文明14・1・18〕御日まちまへにて。けふ御ぐしあらはれて御ゆになる。〔ゆどの天正7・10・14〕(同) 833 **おかもじ**〔静〕 833-2 **かもじ**〔隠語一(室町時代)〕(770参照) (関) 834 **おぐしあげ**(結髪)〔静・公家・女官〕 835 **おぐしすまし**

(髪洗)〔女中・女詞〕 836 **おぐしそろえ**(髪むすび)〔女中・女詞・静〕 837 **おぐしとり**(髪結い)〔穂稜女官談〕 838 **おとおし**(髪をとくこと)〔静〕 839 **おときさけ**(髪をとき放すこと)〔静〕 840 **おなで**(髪をなでつけること)〔公家〕 841 **はなちがみ**(乱髪)〔女中・女言・女詞〕

842 **おかりどこ** 「御かり床」は「病床」か。〔静〕

843 **おしまい** 御化粧〔穂稜女官談〕

844 **おすそ** お足〔静・公家・大聖・女官〕(解)大聖寺では他人の足をいう。(同) 845

**おみあし**〔女重・女中・女言・女礼・女万・大聖〕 846 **おみや**〔公家・大聖〕 846-2 **おみやさん**

(例)おみ大きいおみやさん〔大聖〕(関) 847 **すそ**〔大聖・宝鏡〕(解)自分の足をいう。

848 **おせん** <sup>せんき</sup> 疝気〔静〕(関) 849 **おでもの**(お出物は発疹)〔静〕 850 **おはっしもの**〔嘔吐〕〔静〕 851 **おみずけ**(御水気・下痢・脚気)〔静〕

851-2 **おそくもじ** お息文字はご息災・ご元気〔隠語一(室町時代)〕

852 **おちょうず** 大小便〔女中〕小便〔静・公家〕(同) 853 **おとう**(大便)〔公家〕 854 **し**

**し**(子どもの小便)〔日ボ〕(関) 855 **おとりにゆく**(大小便に行く)〔女重・女中・女言・大聖〕 856 **ようかなえる**(同左)〔女万〕 857 **よそよそへまいる**(同左)〔大聖〕 858 **わたくしに**

**まいる**(同左)〔女言〕 859 **ししをする**(小便する)〔日ボ〕

860 **おつたみ** 乳児が一旦吸った乳を出すこと。〔女詞〕(同) 861 **つたみ**〔女中・女言〕

862 **おつむ** 頭〔公家〕一般にも児童・婦人が使う。(同) 863 **おつむり**〔女中・女官〕 864 **つむり**〔女言・大聖〕(例)わたくしつむりが痛うござりまして。〔大聖〕 865 **おつむさん**

(頭の最高敬語)〔大聖〕(例)おかみにはおつむさんがお痛みあそばされまして〔大聖〕

(解)自分の頭は「つむり」といって,「おつむ」・「おつむさん」とはいわない〔大聖〕

866 **おなか** 腹〔日ボ・女中・女言・静〕(同) 867 **おみなか**〔静・大聖〕(例)宝鏡寺さんにはおみなかが痛うて,ごわしゃりませんでした。〔大聖寺のお次が宝鏡寺のゴセンのことをいうとき。〕

867-2 **おなら** 屁〔隠語一(江戸時代)〕(解)「お鳴し」の下略語か。

868 **おぬる** 熱〔女重・女言・女万・公家〕(解)〔公家〕では,オカミの発熱をいう。(例)おぬるもおありあそばし(熱が上る)〔静〕,おぬるもおうきあそばし(熱が出る)〔静〕,おぬるうすく(熱が下る)〔静〕(同) 869 **おねっき**〔ゆどの〕(例)よべより御心わろく御ねつき

ありて。竹田御みやくにまいりて。御くすりまいる。〔ゆどの天正7・2・10〕

870 **おびあがり** 産後の枕なおし。〔女中・女言・女詞〕

871 **おまけ** 月経 〔静・公家〕 (743・747参照) (同) 872 **おめぐり** 〔静〕 (743・747参照),

872-2 **おやく** お厄〔隠語一(江戸時代)〕 873 **かりや**〔女中・女詞, 伊勢・信濃方言〕 874 **さしあい**〔大上・ゆどの・貞丈, 隠語一(室町時代)〕 (例) にはかにさしあひとてまいられはせず。

〔ゆどの文明14・3・7〕 ながはしけふより御さしあひ。〔ゆどの天正7・3・18〕 875 **つぎ**〔宮・女官〕 876 **つきのもの**〔女中, 隠語一(室町前代)〕 877 **まけ**〔公家・大聖・女官〕 877-2 **めぐり**〔隠語一(室町時代)〕 877-3 **ようじ**〔隠語一(江戸時代)〕 (関) 878 **おてなし**〔ゆどの〕 (例) 女中御てなしにて。御はいぜんに三条さねえだめす。〔ゆどの慶長3・2・12〕 878-2 **てなし**〔ゆどの・女言, 大隅・種子ヶ島方言〕 (例) 春日まつりの御神事入にて。手なし。ぶくしや出さるゝ。〔ゆどの貞享3・2・9〕 (解) お手無し(手無し)は月経中の女。御供・調度に手を触れることができないのでいう。 879 **はつはな**(初花・初経)〔女官〕

879-2 **おまる** 「お丸」は「腰」〔隠語一(室町時代)〕

880 **おみあせ** 血 〔公家〕 (解) 「オミ」は宮様以上につける最高敬語。

881 **おみかお** お顔 〔静・大聖〕

881-2 **おみからだ** おからだ(宮様以上の)〔大聖〕 (同) 881-3 **おみからださん**(例) 明治さんはおみからださんがご立派であらしゃりました。〔大聖〕

882 **おみくび** お首 〔公家・大聖〕

884 **おむさむさ** 軽症 〔ゆどの・静・公家・大聖〕 (例) ながはしいまだ御心むさゝにて。こよひも御まいりなし。〔ゆどの天正7・10・27〕 (解) オカミに対しては「おむさむささん」「おむささま」ともいうが、これは野暮な表現〔大聖寺談〕 (関) 885 **おうつとり**(心のふさぐこと)〔静〕 886 **おこまがき**(病気のわるいこと)〔静〕 887 **おさわけ**(気分のよいこと)〔静〕 888 **おひろけ**(病気のなおること)〔静〕 889 **おふかしき**(病気のわるいこと)〔静〕 890 **おふさげ**(御塞気は気分のわるいことか)〔静〕 891 **おふでき**(気分のわるいこと)〔静〕 892 **およしよし**(平癒)〔静・公家〕 893 **かんらく**(歓楽はめでたいときに病氣したこと)〔ゆどの・公家〕 (例) くら人くわんらくどもとてしこうせず。〔ゆどの文明14・3・3〕 894 **ごかんらく**(同左)〔大聖〕 894-2 **わもじ**(病氣)〔隠語一(江戸時代)〕

895 **おむしけ** 虫氣 〔ゆどの〕 (例) 宮の御かた御むしけにて。こよひはならしまさず。〔ゆどの天正7・5・1〕

896 **がいきけ** 咳気け。風邪氣味〔宝鏡日記〕 (例) 御がいきけのよし申候て御まいりなし。〔宝鏡日記慶安2・1・12〕 (解) 京都はじめ近畿・中部の一部に方言として残る。(同) 897 **がいびょう** 咳病 〔ゆどの〕 (例) けさは又御がひびやう御わづらひあるやうにて御ようになる。〔ゆどの文明14・10・9〕

898 **かぶかぶ** おかっぱ 〔宮〕

899 **きあい** 気分 〔宝鏡日記〕 (例) 御ちの人きあいあしく候てみまいにまいらせられ候。

〔宝鏡日記・万治3・1・24〕

900 **しじ** 子供の陰茎〔日ボ〕

901 **しん** 眉毛〔公家・女官・大聖〕

902 **つわ** つば〔日ボ〕

903 **ぼぼ** 女陰〔日ボ〕

904 **もうもう** <sup>もうもう</sup> 朦々は朦気、気のふさがること、病氣〔ゆどの・宝鏡日記〕（例）二条のさきの関白もう〜すき〜にて。〔ゆどの天正7・3・15〕あまり〜いともう〜といたし候まゝちと〜まいり候はん〔宝鏡日記承応2年お文〕（同）905 **おもうもう**〔ゆどの〕（例）宮の御方御もう〜にてけふはならず。〔ゆどの文明14・4・1〕906 **おもうき** お朦気・病氣〔ゆどの・日ボ〕しんせう寺殿ひさしき御もうきに。〔ゆどの文明14・5・4〕ゴモウキデゴザル〔日ボ〕

## V 人 倫・官 職

907 **あもじ** 姉〔ゆどの・公家〕（例）あもじ御所もいらせおはします。〔ゆどの文明14・6・23〕（同）908 **いね**〔女今川〕909 **おねいさん**〔公家〕（解）「おねいさん」は宮中・堂上家で用いる小児語。

910 **いままいり** 今参り。新しく奉仕した高級の女官〔ゆどの・公家〕（例）御いまゝいりくらまゝいりにて御とひがきまいる。〔ゆどの文明14・12・18〕

911 **いもせ** 夫婦〔女今川〕（同）912 **おんふたところ**〔日ボ〕

913 **いろねこ** 妹〔女今川〕

914 **うえさま** 上様。天皇〔大聖日記・宝鏡日記・宝鏡お文〕（解）宝鏡寺では、宮様以上の当主をいう。（例）上々よりまいらせられ候よし心えて申上て候〔宝鏡日記慶安4年の紙背お文〕

915 **うもじ** お内儀様。妻の敬称〔女中・女言・女詞・女礼〕（同）915-2 **おおもじ**〔隠語一（江戸時代）〕915-3 **おかもじ**〔隠語一（江戸時代）〕916 **おまえさま**〔女中・女言・女詞〕917 **かかさま**〔女今川〕918 **かもじ**〔女中・女言〕（960参照）959 **かみさま**〔女礼〕

919 **おうらさん** お裏様。武家から降嫁の室、清華以上で用いる。〔女官〕（同）920 **ごれんちゅうさん**（御簾中様）〔女官・静・公家〕（関）921 **おかみさん**（御督様）〔女官〕一般公家の家庭で用いる。

922 **おおごっさん** 大御所様。摂家・清華・大臣家以上のご隠居〔公家・女官〕

923 **おおじご** 領主殿。先祖。女または子供の言〔日ボ〕

924 **おしもさま** 御下様。命婦・女蔵人・御差の総称〔公家〕

925 **おおすもじ** 大典侍。奥向きの取締りをする職掌。〔ゆどの〕（例）大すもじよりあめ一をけまいる。〔ゆどの文明4・1・4〕（同）926 **おおす**（おおすもじ〔大典侍〕の略）〔ゆどの〕（例）大す。権す。新大す。ながはし御てうしどもまいらせらるゝ。〔ゆどの文明14・5・9〕

- 927 **だいすけ** 〔ゆどの・静・公家〕
- 928 **おおちのひと** 大乳人。命婦の次席 〔大聖日記・静・公家〕（例）ながはし<sup>2</sup>大御ちの人あぜちどのへいつものごとくさげおび二すぢづかわされ候 〔大聖日記万治3・1・8〕（関）
- 929 **おおおち** 上皇付きのおちの人。おほ（大）は隠居の意〔ゆどの〕（例）大御ちよりも御くましん上。〔ゆどの貞享3・9・1〕
- 930 **おおとのさん** 大殿様。諸家殿上家の主人のご隠居〔公家〕
- 931 **おおみやさん** 大宮様。皇太后宮。〔公家・女官〕
- 932 **おかたさん** お方様。方領米を拝受する公家の息〔公家〕（同） 933 **おかた**（お方）〔公家—高倉子爵談〕
- 934 **おかみ** <sup>かみ</sup> お上。天皇〔公家・女官〕（同） 935 **きんちゅうさん**（禁中様）〔大聖日記・公家〕（例）きん中<sup>2</sup>仙洞<sup>2</sup>女院<sup>2</sup>しんわう<sup>2</sup>ひめ宮<sup>2</sup>へくれの御札にならせられ候 〔大聖日記万治3・1・28〕 937 **しゅしょう**（主上）〔公家〕 938 **とうぎん**（当今）〔公家〕
- 938-2 **おかみがた** 宮様方〔大聖〕（例）京都にはおかみがたさんがごあしやりません。〔大聖〕
- 939 **おきぬ** オカミに衣を差上げる役〔ゆどの〕（例）けふよりの御きぬ上らふ。〔ゆどの文明14・1・16〕
- 940 **おけずり** 陛下の髪をくしけずる役〔ゆどの〕（例）御けづり御ぐし中内〔ゆどの文明14・1・18〕
- 941 **おこたち** 子供たち〔女重・女中〕（同） 942 **おさない**（子供）〔女重・女中・女言・女詞、隠語—（江戸時代）〕 943 **こたち**〔女札〕 944 **とりとり**〔女中〕（解）子どもの多いことにもいう〔女中・女言〕 945 **わかご**〔女言〕（1028参照）
- 946 **おごりょう** 女〔女今川〕（解）御御料は御御料人の略
- 947 **おさし** 御差。宮中女官の官名で、新参の人に差図する既婚の婦人〔大聖日記〕。（例）おさしへいまおりおび一すぢ 〔大聖日記万治3・1・6〕
- 948 **おさぶらいしゅう** 御侍衆。〔宝鏡日記〕（例）御さぶらい衆さこん八ざへもん八良ゑもん八良ざへもん也。〔宝鏡日記万治3・1・18〕
- 948-2 **おすえ** お末は内裏の下女またはその部屋〔隠語—（室町時代）〕「末広」のことともいう。
- 948-3 **おそばさん** お側に近侍して主上の身の回りの世話をする女官〔大聖〕
- 949 **おそもうじさま** 「あなた」の敬称。（解）「おまえさま」「そなたさま」より身分の低い人にいう。なお書くときは「おそもじさま」。〔大聖寺ゴゼン談〕
- 950 **おたたさん** 御多々様。宮中・宮家・摂家・清華・大臣家で、母君をいう小児語〔公家・大聖〕（同）おたあさん〔公家〕（解）「おたあさん」諸家・堂上家・賀茂の社家で使用する小児語。鳥取・高松方言でも。 950-2 **たた** 長野県西筑摩郡・淡路島（小児）・徳島・対馬方言 950-3 **だだ** 出羽〔物類〕・飛騨〔飛州志〕・福島県三瀨郡方言 951 **おたもじさま**〔静〕
- 952 **おたさん**〔長野県木内郡・新潟県中頸七成郡で僧侶の子が母を〕 953 **たあさん**〔滋賀県神崎郡・

- 香川県木田郡・鳥取県気高郡方言] 954 **だあさん**〔熊本県玉名郡腹赤村方言] 955 **だあさ**〔山形県置賜地方の方言] (関) 956 **おふくろ**〔日ボ・大聖] (例) おふくろがお乳の人であがっていて。〔大聖] 957 **おふくろさま** (母)〔静] 958 **かかさま** (御内儀)〔女今川] 960 **かもじ** (母)〔女中・女言・女詞・女礼, 隠語一(室町時代)] (解) 母・妻・かかの文字ことば 961 **たらちね** (母)〔女中・女言・女詞] 961-2 **ふもじ**〔隠語一(江戸時代)] (解) お袋の文字ことば。
- 962 **おちごさん** 諸家・諸上家の子息〔公家]
- 963 **おてなが** 御手長。配膳をとりついで運ぶ役〔ゆどの・静] (例) 御はいぜん三でう中納言。御てなが頭弁かねかつ朝臣なり。〔ゆどの天正 7・1・11] おてがつく (1085参照)
- 964 **おとしめし** 老人〔公家・大聖]
- 964-2 **おともじ** お多福。お多文字のなまり〔隠語一(江戸時代)]
- 965 **おにいさん** 兄〔公家] (解) 宮中・宮家・堂上家で、兄の敬称的小児語。
- 966 **おもうさん** 父〔公家・女官] (解) 宮中・宮家・摂家・清華・大臣家で父を称する小児語。御申様。御孟様〔公家] 本願寺では「御孟様」と記した〔女官] (同) 967 **おでえさん** (お出居様)〔公家] 諸家・堂上家で父を称す〔公家] 宮廷では「サン」、武家では「サマ」を用いた〔女官] (関) 998 **ともじ** (父。「とと」の文字ことば。)[女中・女官・女詞, 隠語一(江戸時代)] 999 **ちちご**〔日ボ]
- 968 **かっしき** 喝食〔ゆどの・宝鏡日記紙背お文・大聖] (例) おか殿御かつしき御所。ふしみ殿。あんぜん寺殿〔ゆどの文明 14・7・10]
- 969 **きみさん** 君様。皇太子妃〔公家一生源寺旧女官談] 皇族の妃〔公家・女官] 宮様からご降嫁の室〔公家・女官] (同) 970 **みやすどころさん** (御息所様) (関) 971 **〜きみさん** 皇族の妃殿下または摂家・清華の子息及び子女。〔公家] たとえば「節ぎみさん」。
- 972 **こともじ** 一人称〔宝鏡寺日記紙背お文] (例) こゝもじすこしの御すきも御ざ候はゞ〔宝鏡日記明暦 3・3・4 紙背お文] (同) 972-2 **わもじ**〔隠語一(室町時代)] 973 **わらわ**〔日ボ]
- 974 **ここともと** 私方。〔宝鏡お文] (例) こゝもと御もんぜき段にも一だん御きげんよく〔宝鏡日記万治 3・3・13 紙背お文]
- 975 **ごしょさま** 御所様。天皇・上皇・法皇をはじめ、宮門跡にもいう (門跡では御所号が許されているから、御所様という)。なお、摂家・清華のあるじにも用いることがある。〔ゆどの・大聖日記・宝鏡日記] (例) 御所さま御ときさせおはしまし候〔ゆどの文明 18・12・27] (同)
- 976 **ごっさん** (御所様)〔公家・女官] (関) 977 **いんどしょさま** (院御所様。仙洞様)〔大聖日記・宝鏡日記]
- 978 **こなた** 当方〔女官] (関) こなたがた (こちら方, 尼門跡では、その社会全体をさす)〔女官・大聖] 979 **こなたさん** (こちらがた)〔大聖] 980 **こち** (こちら)〔公家]
- 981 **ごもじ** 女の子。ご文字は「御料人」の文字ことば。〔女礼, 隠語一(室町時代)] (同)
- 982 **ごりょうにん**〔女礼]
- 983 **ごんすもじ** 権典侍〔公家] (同) 984 **ごんすけさん**〔ゆどの・大聖] (例) ひる上ら

ふ。権すけ殿。新大すけ殿。〔ゆどの文明 14・1・9〕

985 **ざっし** 雑仕。仲居・茶の間をいう。〔公家〕（解）「茶の間」は茶の間に働く女中の意。

986 **～さん** 宮中・堂上の弟または妹をいう小児語。〔公家〕

987 **しんすもじ** 新典侍〔ゆどの・公家〕（同）新すけさん〔大聖〕新すけ殿〔静〕

988 **しんみょう** 針女。女官の御局における上級の女中〔公家〕

989 **すけ** 典侍〔ゆどの・公家〕（関） 990 **ないすけ**（内侍典侍）〔ゆどの〕（例）はくの二位内すけ〔ゆどの文明 14・1・4〕 991 **しんない**（新内侍典侍）〔ゆどの〕

991-2 **せんもじ** 相手。先方。〔隠語一（江戸時代）〕

992 **そもじ** お前。二人称。〔宝鏡お文・女中・女言・女詞・今川，隠語一（室町時代）〕（例）そもじ様にも御ともにておいりまちまいらせ候〔宝鏡日記明暦 3・2・1 の紙背お文〕（同） 993

**そなた**〔公家〕目下に使用〔女官〕 993-2 **そち**（例）そち元気かい（明治の高級女官が目下に）

994 **そなたさん**（そちらさん。こなたさんに対する語で相手をさす尊称語）〔公家・大聖〕

995 **そのごしょさま** その御所様は相手方の主人〔宝鏡お文・女官・大聖〕（例）その御所にも御きげんよく御ざ候まゝ〔宝鏡日記・明暦 3・1・5 紙背お文〕（関） 996 **このごしょさま**（自分の御所の主人，975参照）〔宝鏡お文・大聖〕

997 **だいさま** 大聖寺様〔大聖〕（例）だい様がごあしやりました〔宝鏡〕（解）頭字だけをとり後を省略する呼び方が，公家社会ではよく用いられる。（関）（例）めうもん〔妙法院門跡〕へ御たるさかなまいる。〔宝鏡日記慶安 1・8・20〕こん〔近衛様〕へひしはなびら御すりのふた＝入五十かさね御てうしひさげまいる。〔宝鏡日記慶安 2・1・2〕大もん〔大覚寺門跡〕へ一折こもんかみ四十枚まいらせられ候〔宝鏡日記承応 2・2・1〕

1001 **とおさん** 諸家・堂上家の子息・子女〔公家〕（解）特に父母から子と呼ぶ時に用いる。

1002 **とのさん** 殿様。諸家・堂上家の主人〔公家〕

1003 **なかい** 仲居。女官の局における台所の女中〔公家〕

1004 **ながはしのつぼね** 長橋局。勾当掌侍。口向の取締りをする職掌〔公家〕（同） 1005 **ながはしさま**〔大聖日記〕 1005-2 **ながはし**〔ゆどの〕（例）ながはしより。たけはじめてまいる。〔ゆどの文明12・3・22〕

1006 **にょくろおど** 女藏人〔公家〕

1006-2 **ぬもじ** 盗人〔隠語一（江戸時代）〕

1007 **はるのみやさん** 春宮様。皇太子〔公家〕

1008 **ひもじ** 姫〔公家〕（同） 1009 **おひもじ**〔公家〕 1010 **ひめ**〔女中・女詞〕 1011 **ひめご**〔女礼〕 1012 **むらさき**〔日ボ〕（関） 1013 **～ひめさん**（諸家・堂上家の子女）〔公家〕

1014 **ぶくしゃ** 服者。忌服者。喪中の者〔ゆどの〕（例）春日まつりの御神事入にて。手なし。ぶくしや出さるゝ。〔ゆどの貞享 3・2・9〕御ぶくなるにより。ことし御しこうなきよし御申。〔ゆどの文明 4・2・5〕

- 1015 **べえ** 部は「下僕」〔公家〕
- 1106 **～まるさん** 丸様。諸家・堂上家の子息の元服までの呼方〔大聖日記・公家〕（例）大  
せん<sup>さん</sup>八丸<sup>さん</sup>御ともにて御まいりなされ候〔大聖日記万治3・1・14〕（解）父母から子息を呼  
ぶ時には「～まる」という。
- 1017 **みかしら** 三頭。大典侍・勾当掌侍・伊予（命婦の頭）〔公家〕
- 1018 **みなかま** 三仲間。御末<sup>おすえ</sup>・女婦<sup>おすえ</sup>・御服所<sup>ごふくどころ</sup>のこと〔公家〕、宮中の呉服係り・お道具係り  
・ご膳係のこと〔宝鏡〕
- 1019 **みだいのかた** 御台の方。貴人の妻の敬称。御台盤所の略。〔ゆどの〕（例）御だい  
の御方より御まな三色。〔ゆどの文明14・1・10〕
- 1020 **もうすさた** 申沙汰。主催，当番〔ゆどの〕（例）内々のおとこたち申さた。〔ゆどの  
文明 14・1・26〕（関） 1021 **おさたのかたがた**（主催者）〔ゆどの文明 14・1・9〕
- 1022 **や** 屋。物売りをいう〔女官〕
- 1022-2 **やもじ** やり手〔隠語—（江戸時代）〕（例）三番太鼓ほの<sup>へ</sup>とせきてやもじが逢は  
せぬに〔傾城懸物揃〕
- 1023 **よだつ** 与達。代理〔公家〕
- 1024 **りょうとう** 両頭。大典侍と長橋局〔公家〕
- 1025 **わかごっさん** 若御所様。摂家・清華・大臣家以上の若主人〔公家・女官〕（関） 1026  
**わかとのさん**（若殿様）〔公家〕 1027 **わこ** 男の子〔女礼，隠語—（江戸時代）〕（同） 1028 **わ  
かご**〔女中・女詞〕（945参照） 1029 **わかさん** 若様。諸家・堂上家の子息〔公家〕

## VI 動作・形状 (§ 189)

### 1. 動作 (§ 190)

- 1030 **あがる** 魚が死ぬ〔大聖〕（例）金魚があがった〔大聖〕
- 1031 **あがる** 献上がある〔大上・大聖日記・宝鏡日記・女重・女中・女言・女詞・女万〕（例）  
ほうき殿よりこんぶあがる。〔大聖日記万治 3・1・1〕
- 1032 **あげましゃる** オカミ方からのご献上〔公家・大聖〕
- 1033 **あげる** してあげること。〔女官〕（例）「お召替えあげる。」とか，「おあおぎあげ  
る（お扇ぎする）。」とかいう。〔大聖〕
- 1034 **あそばす** 「する」の尊敬語〔大聖〕（例）お礼にお出あそばす。〔大聖〕（解）シ  
ャル・マシヤルの用法を補う中間敬語（同） 1035 **あそばされる** 最高敬語に使う。
- 1036 **ありき** 散歩〔ゆどの〕（例）御だいより御ありきの宮げとて。御くりのかごまいる。  
〔ゆどの文明14・8・25〕（同） 1037 **おひろい**〔女重・女中・女言・女万・公家・静・女官・大聖〕
- 1038 **ひろい**〔宝鏡日記・女礼〕（例）日くれ候てあけの宮<sup>へ</sup>へひろひにてならせられ候〔宝鏡  
日記承応 2・9・16〕（関） 1038-2 **ひろう**〔隠語—（室町時代）〕



- 1039 うがい 手水〔女中・女言・女詞〕（関） 1040 おみようがい（陛下のうがい）〔公家・大聖〕 1041 おうがい〔女官〕
- 1042 おいきまき 「御息巻」は「ご立腹」〔女中・女言・女詞〕（関） 1043 おにつかる（立腹する）〔女中・女詞〕 1044 おみなかだつ〔大聖〕
- 1045 おいであそばす 外出・訪問にいう尊敬語〔大聖〕
- 1046 おうちつき 御到着〔静〕
- 1047 おうつうつ 浅い居眠り〔静〕（関） 1048 おすやすや（深い眠り）〔静・大聖〕
- 1049 おおう 貝を合わす〔女言・大聖〕（関） 1050 おみおおい お貝合せ〔大聖〕（例）おみおおい遊ばしまして〔大聖〕 1050-2 かいおおい（貝合せ）〔女重・女万〕 1051 かいづくし（貝合せ）〔静〕
- 1052 おおどろきさん お驚きになること。〔大聖〕（例）ひどい風で、おかみはおおどろきさんであらっしゃいましたやろ〔大聖〕（同） 1053 きゅうがる〔公家〕 1054 きょくんな〔公家〕
- 1055 おかくれ 死ぬことの尊称〔宮〕（解）御所では皇族だけでなく臣下にも用う。
- 1056 おくだし 賜わること〔静〕（関） 1057 おくだしもの（ご下賜品）〔静〕 1058 さげもの〔静〕 1059 くだされもの（拝領品）〔静〕 1060 たまわりもの〔公家・大聖〕 1061 いただきもの（到来もの）〔静〕 1062 しんじられもの（贈与品）〔静〕
- 1063 おさがり 雨の降ること。〔女重・草・女万〕
- 1064 おしつけ 試嘗〔公家〕
- 1065 おしずまり お静まりは「眠ること」の敬称〔ゆどの・静〕（例）わかみやの御かたは御しずまりにてならず。〔ゆどの天正 7・4・1〕（同） 1066 おみこし（お上の御就床）〔静〕
- 1067 みこし（同左）〔公家・女官〕 1068 ぎょしん（御寝。宮様のご就床）〔公家・女官〕 1069 おいる（左の動詞形） 1070 おしずまる〔女重・女中・女言・女詞・今川・女万・公家・女官〕 1071 おとこへなる〔静〕 1072 ぎょしなる〔静・大聖・女官〕 1073 およる〔女礼〕 1074 しずまる〔女礼〕 1075 ごふくさし（床をとること）〔女中・女言、隠語一（室町時代）〕 1076 ごふくつし（同左）〔女詞〕（関） 1076-2 みすいり 簾入りは床入り。貴人の婚礼の場合にいう。〔隠語一（江戸時代・宮廷）〕
- 1077 おしまり 交通遮断〔静〕
- 1078 おすき お暇<sup>ひま</sup>〔宝鏡お文〕（例）こゝもとすこしの御すきも御ざ候はば〔宝鏡日記 明暦 3・3・4 紙背のお文〕
- 1079 おすす 煤払をすること〔公家・女官〕（1222参照）
- 1080 おすすぎ 洗うこと〔女官・大聖〕（同） 1081 おすまし〔静・女官・大聖〕
- 1082 おたたする おんぶする、背負う〔公家・大聖〕（例）ヤヤさんをおたたする〔大聖〕（解）京都の町方でもいう。
- 1083 おちる 鳥獣の死ぬことをいう〔大聖〕（例）あの猫おちましてな。〔大聖〕
- 1084 おてあそばす お手を叩かれること（拍手される）〔ゆどの〕（例）八百宮の御かたか

- うぜられけふより三日御つゝしみ。御手もあそばさず。〔ゆどの貞享 3・12・2〕
- 1085 **おてがつく** 召上る〔女詞・大聖〕「おてつく」とも。(例) お手がつきまじりました〔大聖〕
- 1086 **おとぎ** 相手をすること〔公家・女官〕
- 1087 **おなし** 抱くこと〔公家〕(関) 1088 **おなしする** (お抱きする意)〔大聖〕(例) おなし遊ばしてござった時〔大聖〕(解) 京の町方ではダイダイするという。
- 1089 **おひなる** 「お昼なる」は「起きる」の尊称語。〔片言・女中・女言・公家・大聖、盛岡・広島・香川・徳島・大分方言、隠語一(室町時代)〕(例) ゴゼンがおひなりまして。〔大聖〕(解) 「片言」に「御寝あれをぎようしなれ、ぎよしなれなどいふはいかゞ。およれぞ、おひなれぞといふは、女言葉にやさしと云り。おひなれはお昼なれといふ心歟。それをおひんなれとはいかゞ」とある。また「玉勝間」に『女の詞に人の寝たるが起くることを「おひなる」といふ。伊勢などには「おひるなる」といふ。東にて寝ることを「およる」といふ。お昼なる、御夜なるといふこと也。』(同) 1090 **おひになる**〔長門方言〕 1091 **おひり**〔常陸方言〕
- 1092 **おひるなる** (解) 大聖寺ではオカミのご起床にいう〔女詞・女万・女礼・大聖・女官〕(例) おかみがおひるなりまして〔大聖〕 1093 **おひん**〔日ボ〕(例) いざおひんなれ〔日ボ〕 1094 **おひんなる**〔女言、香川方言〕 1095 **おひる**〔日ボ・公家〕(例) 「もうしょう、おひるでおじゃあと申させ給う」(宮中のオヒルぶれ)(関) 1096 **あさい**(朝寝)〔女言〕
- 1097 **おじゃうばらい** (お床上げ)〔静〕
- 1098 **おひろめ** 通知〔静〕
- 1099 **おまめ** 息災〔女中・女言・女詞〕
- 1100 **おめもじ** 面会〔公家・女官、隠語一(室町時代)〕(同) 1101 **おめみえ**〔静〕 1102 **めもじ**〔今川〕
- 1103 **おわたまし** 転居〔ゆどの・大聖日記・静、隠語一(室町時代)〕(例) 八百宮の御かたへ御わたましの御しうぎ御なか十。〔ゆどの貞享 3・10・9〕
- 1140 **ぐしん** 具進。召上り物を差上げる〔宮〕
- 1105 **くす** よこす、貰う〔大聖〕(例) こんな物をくしましてな〔大聖〕 此処へも汲んでくせ〔狂言緋綱〕
- 1106 **くもじ** 親王・関白の御帰還〔ゆどの・大聖日記・宝鏡日記・静・公家〕(例) よる二条より宮の御かた御さか月になる。やがてくもじなる。〔ゆどの天正 7・12・1〕
- 1107 **げげをする** 草履をはく。〔日ボ〕(関) げげ(芥下、下々の草履、伊予幼児語で下駄をゲンゲ)(例) 三人は馬を捨ててげげをはき〔天草本平家〕
- 1108 **けさん** 見参。お目にかゝること。〔ゆどの・大聖日記・宝鏡日記〕(例) わか宮の御かたもなしまいらせられて御けさむあり。〔ゆどの文明 14・8・1〕(同) 1108-2 **おげんもじ**(お見文字)〔隠語一(江戸時代)〕(例) どうも鬼の娘に御げんもじ〔姫山姥〕
- 1109 **ごあしゃる** お出になる。〔大聖・宝鏡〕(例) 宝鏡寺さんがごあしゃりましてござり

- ます。〔大聖〕（解）女官は 1109-2 「**おわしゃる**」という。〔穂稜女官談〕
- 1110 **こしらえる** 買う〔大聖〕（例）お菓子をこしらえる。〔大聖〕
- 1111 **ごしゅらい** ご修礼。儀式などの下稽古。〔ゆどの〕（例）御はかうの御しゅらいあり。  
〔ゆどの慶長 3・7・12〕
- 1112 **ごだんこう** 御談合。〔日ボ・宝鏡日記・大聖日記〕（例）きん中<sup>2</sup>へ御礼に御だんこ  
うにみくしげ<sup>2</sup>へ御ちの人まいらせられ候〔宝鏡日記万治 3・1・6〕（解）話し合うこと。  
1112-2 **だんこう** パジェスの「日仏辞書」に、「dancō ダンカウ カタリアワスル」とある。
- 1113 **さかゆひく** 疱瘡後のお湯に入ること〔女重・大聖〕「さかゆ」は酒湯か
- 1114 **ささめごと** ささやくこと〔女中・女言〕（同） 1115 **ささめいう**（左の動詞形）〔女詞〕
- 1116 **しおしおえ** 涙〔女中〕（同） 1117 **しほえ**〔女言〕
- 1118 **したためる** 煮る〔公家・大聖・女官〕（例）宮サンは白ムシにじゅんさいを浮かし、  
白豆とむすびかんぴょうとしたためたのがお好きさんやったそうです。〔大聖〕（同） 1119  
**したたむる**〔女万〕
- 1120 **～しゃる** 特定の四段活用 of 未然形につく中間敬語〔宮中・大聖・宝鏡〕（例）オバン  
をあがらしゃっていただきます。〔大聖〕
- 1121 **しんぜられる** いただく。贈与される〔大聖〕（関） 1122 **～てしんぜられる** ～て  
いただく〔大聖〕（例）お出あそばして進ぜられまして〔大聖〕
- 1122-2 **しんもじ** 「親文字」は「親切」。〔隠語一（江戸時代）〕
- 1122-3 **しんもじ** 「心文字」は「心配」〔隠語一（室町時代）〕
- 1122-4 **すかすか** いそぎの〔隠語一（室町時代）〕
- 1123 **すべす** 物を下げる〔女言・女万・公家・大聖〕（例）おぜんをすべす〔大聖〕（同）
- 1124 **すべる**〔ゆどの・宝鏡日記〕（例）こわく御の御ぜん大夫すけ殿へすべる。〔ゆどの貞享  
3・1・1〕あさ御ぜんほうじ院へすべる〔宝鏡日記 慶安2・1・1〕（関） 1125 **おすべり**（お下り）  
〔大聖〕 1125-2 **ごぜんすべる**（「御膳すべる」は食物を食べ終わる）〔女中，隠語一（江戸時代）〕
- 1126 **すます** 洗う〔日ボ・公家・大聖〕（例）髪をすます〔大聖〕
- 1127 **すもじ** 推量〔今川〕
- 1127-2 **せもじ** 世話〔隠語一（江戸時代）〕
- 1128 **たれる** 剃る〔公家・大聖〕（関） 1129 **おぐじたれ**（剃髪）〔大聖〕 1130 **おたれをあ  
げる**（髪をそる）〔大聖〕 1131 **けたる**（そる）〔公家・大聖〕
- 1132 **～であらしゃる** 「でございます」に当る御所ことば。尼門跡どうし、一老がゴゼンに、  
女官どうしでしばしば用いる。〔大聖・宝鏡・宮中〕（例）ご満足さんのお事であらしゃりま  
しょう。〔大聖〕（同） 1133 **～でござります** ～でございますの非音便形。〔大聖〕（関）  
大聖寺では 1134 **おっしゃります** 1135 **くださります** と古形使用。
- 1136 **てらさげ** 「寺下げ」は次男以下の子どもの死んだときにいう〔公家〕
- 1137 **ともじ** 取られること。（998参照）

- 1137-2 **ともじ** 盗むこと〔隠語—(江戸時代)〕(解)こゝもとの不弁といへば、雑事銭、こよひぬもじにともじせらるゝ。〔宗長手記〕
- 1138 **なおす** <sup>さかな</sup> 脂をむしる〔女中・女言・女詞〕
- 1139 **なおす** 食物を切る〔女万・公家・大聖〕(例)おまんを三つになおす〔大聖〕(同)
- 1140 **はやす** (食物を細かくきざむ)〔口ボ・女官・大聖〕(例)七草をはやす〔大聖〕 1141 **わたす** (漬物をきる)〔公家〕
- 1142 **ならしゃる** お成りになる(宮様以上)〔公家・大聖〕(同) 1143 **きやる** (目下に)〔大聖〕
- 1144 **まいらせらるる** お上げになる〔大聖日記〕(例)御としだまに金苞分二つまいらせらるゝ。〔大聖日記万治 3・1・1〕
- 1145 **〜ましゃる** 特定動詞の連用形につく最高敬語助動詞。〔宮中・大聖・宝鏡〕(例)入御なりましゃりました。〔大聖〕お滞りのうするする済みましゃりました。〔大聖〕
- 1146 **むつかる** 泣くこと〔女官・大聖〕(例)おややさんがようむつかりまして〔大聖〕(同)おむずかる〔隠語—(室町時代)〕

## 2. 形 状 (§ 191)

- 1147 **あらあらしい** 粗末だ〔大聖〕(例)畑のものであらあらしい〔大聖〕
- 1148 **いしいし** 一々、嚴重に〔ゆどの〕(例)くゝゐをはじめて。そのほかの御とりいし〜おなじ。〔ゆどの文明 14・12・28〕
- 1149 **いとぼい** かわいい〔公家・大聖・女官〕(同) 1150 **おいとぼい** 〔公家・女官・大聖〕
- 1150-2 **おかし** (例) <sup>こあま</sup> 小尼が歩いている。おかしおしと明治さんがおっしやった。〔宝鏡〕(関) 1151 **おいとぼいさん** 〔大聖〕
- 1152 **いもじさ** 忙しさ〔宝鏡寺お文〕(例)こゝ御程けふは何かといもじさえまいり候まじく候〔宝鏡日記 明暦 3・1・5 の紙背お文〕
- 1153 **うつうつしい** うつとうしい〔大聖〕(例)雨がつづくとうつうつしい〔大聖〕
- 1154 **おいしい** うまい〔女言・女詞・公家・女官・大聖〕(同) 1155 **いしい** 〔女重・女中・女礼・女万〕(解)「いしい」は畿内と東武でも使用。〔物類〕
- 1156 **おいとしい** 気の毒な〔公家・女官・大聖〕(同) 1157 **おいたいたしい** (解)町方でも使用 1158 **おきもじ** (お気文字)〔隠語—(室町時代)〕
- 1160 **おいぼいぼしい** 軽少な、粗末な〔宝鏡・大聖〕(例)おいぼいぼしい事で、お加減もさだめしふ加減なことでござりましたでしょう。〔宝鏡〕
- 1161 **おおはれ** 大へん喜ばれ役立つこと〔大聖〕(例)大はれをいたしました。〔大聖〕
- 1162 **おとくび** 御徳日は悪日〔公家〕
- 1163 **おちかちかしい** 親密な〔大聖〕(例)おちかちかしゅうご対面あぞばされまして(拝謁の時)〔大聖〕
- 1164 **おちかぢか** 近いうちに〔宝鏡お文・静・大聖〕(例)御せつくもちかへ〜にて候まゝ

ならせられ候はず候や〔宝鏡日記明暦3・2・1紙背のお文〕

1165 **おさっと** 簡単に〔静〕

1166 **おさびさび** さびしいこと〔宝鏡お文〕（例）ほうじ院殿せい侍しや御入候はで御人すくなに御さび〜の御事とをしはかりまいらせ候〔宝鏡日記承応2・8・29紙背のお文〕

1167 **おすきさん** 好きなもの〔大聖・宝鏡〕形容動詞の語根に「お……さん」をつけるいい方は、御所ことばに多い。（例）おみおつけがお好きさんであらっしゃいまして。〔大聖〕御丁寧さんにいろいろお霊供をな、お供えになりまして〔大聖〕その他、動詞や名詞にも同じような形をつくる事が多い。（例）高倉さんをおはじめさん、お側にごわしゃいましたやろな。〔大聖〕お仲間さんも招きまして〔大聖〕

1168 **おするする** ご無事に〔静・公家・女官・大聖〕（例）おするすると済みまっしゃりまして〔大聖〕（同）1169 **するする**（仲間同志同輩以下に用う。おするするは目上に使用）〔ゆどの・女中・静・大聖〕（例）たいけんけさまでするするとありて。〔ゆどの天正7・1・14〕

1170 **おそそもじ** 遅いこと〔今川〕

1171 **おにぎにぎ** お賑やかに〔ゆどの・大聖日記・静・大聖〕（例）八わたより上卿下向にて御神事あき。御にぎにぎなり。〔ゆどの貞享2・8・16〕（同）1172 **おおにぎにぎ**（大そうにいう時）〔静・大聖〕

1173 **おはやばや** 早くに〔大聖〕（同）1174 **はやばや**〔宝鏡日記・今川〕（例）はや〜ならせられ候てすなはち御人かへる。〔宝鏡日記承応2・7・2〕1175 **すかすか**〔女中・女言・女詞〕

1176 **おひしひし** 盛大なこと〔ゆどの〕（例）御ひし〜にて幾久しくもとめでたし。〔ゆどの貞享3・12・12〕

1177 **おひろびろ** 「盛大」の意とも、広々の意とも〔ゆどの〕（例）あんぜんじ殿そののちならしまさぬとて御ひろ〜のことにてなる。〔ゆどの文明14・6・10〕

1178 **おみおおきい** 「大きい」の最高敬語〔大聖〕（例）おみおおきなりまっしゃりまして〔大聖〕

1179 **おもなし** 面白くない〔女中・女言・女詞・今川〕

1180 **おもやもや** とり込んでゐること〔大聖〕（解）同輩以下には「お」をつけない。〔静・大聖〕（関）1181 **おおおもやもや**〔静・大聖〕1182 **おおおもやもやもや**〔静〕

1183 **およしよし** よいこと〔静・大聖〕（同）1184 **およしよしさん**〔静・大聖〕

1185 **およずけ** 大人しいこと〔女中・女言、隠語—（室町時代）〕

1186 **きゃもじな** 華奢な、きれいな、清潔な〔日ボ〕

1187 **くもじながら** 恐れながら〔宝鏡お文〕（例）御所様御きげんよくならせられ候よくもじながらめでたく存じまいらせ候〔宝鏡日記明暦3・3・4紙背お文〕

1187-2 **けもじ** け文字は奇妙なこと〔隠語—（江戸時代）〕

1188 **ごきげんさん** 御機嫌様〔大聖〕（例）ごきげんさんでけっこうであらっしゃいます（オカミにいう）〔大聖〕（同）1189 **ごきじょうさん**（ご気丈さんは高級女官や尼門跡に使用）〔大聖〕

- 1190 **ごかんたいながら** 御緩怠ながら。憚りながら。〔宝鏡お文〕（例）こなたよりこそ  
ごくわんたいながらなにかと存じまいらせ候処に覺し召しつけにて下され候 〔宝鏡日記明曆  
3・3・4 紙背のお文〕
- 1191 **ごねんき** ごねんごろに〔宝鏡お文〕〔例〕わたくしわずらひもごねんきに仰られかた  
じけなく存じ候。〔宝鏡日記明曆 3・5・9 紙背のお文〕（同）1191-2 **こんもじ**（懸文字〔隠語  
一（江戸時代）〕 1191-3 **ねんもじ**（念文字）〔隠語一（江戸時代）〕
- 1192 **すきと** すっきりと〔宝鏡お文〕（例）ほうきやう寺<sup>2</sup>御心いまだすきともおはしまし  
候はぬよし〔宝鏡日記慶安 4・9・17 紙背のお文〕（同）1193 **おすきすき**〔静・大聖〕（例）と  
かくおすき〜被遊ず御こまりの御事申入願上候〔大正五・六年頃の女官のお文〕
- 1194 **すなわち** すぐに〔大聖日記・宝鏡日記〕（例）すなはちゑいかつへつかはされ候〔大聖  
日記万治 3・1・16〕
- 1194-2 **そもじ** 粗文字は粗末なこと〔隠語一（室町時代）〕
- 1195 **たえだえしく** 乏しい〔宝鏡お文〕（例）此くりたえ〜しく御ざ候へども〔宝鏡日記  
明曆 3・3・17 の紙背お文〕
- 1196 **ちらと** ちょっと〔ゆどの・宝鏡日記・大聖日記〕（例）こうたうちらとさとへなり〔ゆ  
どの天正 7・12・17〕里光<sup>2</sup>へゑしやう院どの御まいりとてちらと御まいり〔宝鏡日記承応 2・  
2・3〕
- 1197 **つたない** いやしい〔女中・女言、隠語一（室町時代）〕（解）大聖寺では下手な意に用う。
- 1198 **にがにがしい** わるくなる様〔ゆどの〕（例）こよひ三でう大納言わずらいにが〜  
しくて。こよひにはかににんくわいのせんげあり。〔ゆどの天正 7・1・20〕
- 1198-2 **ねたもじ** 猜文字はねたましいこと〔隠語一（江戸時代）〕
- 1199 **はもじ** 恥しいこと〔女言・今川〕（同）1200 **おはもじ**〔女中・女詞、隠語一（室町時代）〕
- 1201 **ひくい** 低価な〔公家・大聖〕（例）おかわりがひくい〔大聖〕
- 1202 **ふたふた** 落ち付かない様、急いで 〔宝鏡寺お文〕（例）さりながらふた〜とくわ  
ん御成まいらせられ候 〔宝鏡日記明曆 3・3・17 紙背お文〕
- 1203 **むつかしい** 高価な〔公家・大聖・隠語一（江戸時代）〕
- 1204 **へやす** 尊敬の助動詞（例）しやす〔公家・大聖〕（解）京ことばでもよく使われる。
- 1205 **ゆめがましい** ほとんど価値のない、夢のように短い〔日ボ〕
- 1206 **ゆめゆめしい** 小さい意 〔日ボ〕
- 1206-2 **りんもじ** 「悋文字」は「やきもち」〔隠語一（江戸時代）〕（例）品よく慕へ慕ふ  
とて誰かりんもじ輪丁花〔松風村雨東帶鑑〕

## Ⅶ 年中行事 (§ 191)

### 1. 恒 例 (§ 192) 〔この項は便宜月日の順に配列した〕

- 1207 **しゅしょう** 修正会のこと。大聖寺・宝鏡寺では元日から5日（大聖寺は3日）まで玉体の安穩を祈っている。〔大聖・宝鏡〕（例）お互さんにしゅしょうもお滞りのう満散になりまして、ありがたいことです。〔大聖〕
- 1208 **しゅくしん** 祝聖は、元旦・毎月ついたちと天皇誕生日に、禅寺で聖寿の無窮を祈っている法要。〔大聖・宝鏡〕
- 1209 **おくちいわい** 「御口祝い」は御門跡へ参賀の人々に、宮様手ずから、昆布とかち栗を賜わる正月の行事。〔大聖日記・宝鏡日記〕（例）くわん御なり候て御くちいわる有。みな〜へも下さるゝ。〔宝鏡日記万治 3・1・1〕
- 1210 **わかゆのごぎょうずい** 新年の清めの行水〔宝鏡日記〕（例）わかゆの御行水まいる。〔宝鏡日記万治 3・1・1〕
- 1211 **きっしょう** 吉書は年頭の書き初め。（室町時代以後、正月の書初めに吉として曆にかかげた日、または年頭の書初め。）〔宝鏡日記〕（例）それより御きつしょうあそばし候〔宝鏡日記万治 3・1・1〕
- 1212 **ななくさ** 七草。大聖寺でも1月7日に若菜粥の祝いをする。七草を一對ずつ並べ、火箸とれんげで叩いて、「尊き神よ、尊き民よ、神・民・富よ」と七度はやして厄除けをする。〔大聖〕（§ 38参照）
- 1213 **くらびらき** 尼門跡では、1月11日に、はじめて蔵を開く行事〔宝鏡日記・大聖〕（例）御くらびらき=て左ひやうへうこんまいらるゝ。〔宝鏡日記万治 3・1・11〕
- 1214 **さぎちょう** 左義長は1月15日か18日に、青竹を束ね立て、それに扇子や短冊などを結びつけて焼く火祭。町方ではトンド（またドンド）という。〔宝鏡日記〕（例）御かいすぎ候てから御さぎんてう有。〔宝鏡日記万治 3・1・15〕
- 1215 **おひまち** 御日待ちは1月・5月・9月の各吉日に行なう。前夜から潔斎し、翌朝の日の出を待って、日の神を拝むこと。〔ゆどの、宝鏡日記〕（例）宮の御かた御日まち〔ゆどの天正 7・4・23〕御日まちあそばし候。〔宝鏡日記万治 3・1・16〕
- 1216 **おそでとめ** 御袖止めは旧6月16日のお月見。（月見のときに16歳になった人の袖下を鉄みで切るからいう）（§37参照）
- 1217 **かつう** 嘉定〔嘉祥〕は6月16日の疫よけの祝。各門跡から、七色の蒸菓子を宮中へ献上した。〔ゆどの・大聖日記・宝鏡日記〕（例）けふのかつう物御いわるあり。むしはらゐせらるゝ。（ゆどの文明 14・6・16）
- 1218 **おつきみ** お月見は旧8月15日にするお月見。大聖寺では「あいわいぎょふく徳さいはひもち月の思ひのままのなすびなりけり」を三度唱えてする。（§37参照）
- 1218-2 **たのむのごしゅうぎ** 憑の御祝儀は八朔の節句（8月1日）（例）禁中へけふの御たのむの御しゅうぎ杉原十帖金水引百ば上る。〔宝鏡日記承応 2・5・15〕
- 1219 **きくわた** 菊綿は重陽の節句（旧9月9日）の前日に、菊に綿をきせ、翌朝とり、露のしめったもので顔や体を拭う延命の祝い。〔宝鏡日記〕（例）きん中へより御きくわたまい

る。〔宝鏡日記慶安 1・9・9〕

1220 **いのこのおいわい** 亥の子の御祝は、旧10月の亥の日に、亥の子餅を食べて祝うこと。

〔ゆどの・宝鏡日記〕（例）いの子の御いわる。春宮の御かたへ御げんてう。のせまいる。〔ゆどの貞享 3・10・12〕御いのこの御いわるの御かちんいつものごとく〔宝鏡日記慶安 4・10・7〕

（解）宮中では御献猪（げんちょ）の式があり、陛下は亥方に向って、つくつく（搗臼）の作法をされ、「神無月しぐれの雨のふるごとに我をもふかなへつくつく」と三度唱えられた。

1221 **おひたき** 御火たきは11月8日に、宮廷の産土神である御霊神社の神へささげる奥向行事で大正時代までであった。大聖寺では「たけ、たけ、お火たきの御霊さんのお火たきの」とはやしてする。（宮中では「御霊どん」といった）（例）いま宮ちんじゆの御火たき也。〔宝鏡日記、慶安 2・11・15〕

1222 **おすす** おすす払い。宮中では12月の月始めから13日（13日をすす納めという）まで行なった。（同）おすすはき〔宝鏡日記〕（例）御いんきよの御すゝはきにて御いわるまいる。〔宝鏡日記慶安 1・12・14〕

## 2. 臨 事 行 事 (§193)

1223 **おひがら** 正忌日〔女官・大聖〕

1224 **おみみふさぎ** 御耳塞ぎは人が死んだ時、その凶事が自分に及ばないように、耳をふさぐ。その時につき餅（おみみふさぎのかちん）を食べる。〔ゆどの・宝鏡日記〕（例）けふより三日御つゝしみ。御手もあそばされず。御みゝふさぎ有。〔ゆどの貞享 3・12・2〕十七日に御はて候よしにてけいかう院殿へ御みゝふさぎあそばされ候てまいらせられ候〔宝鏡日記明暦 3・4・20〕（解）下野国で煎餅・花菓子を両耳に当て、これを小道や辻に捨てて後見をしないで帰る風習がある。

1225 **きよみずへおまいり** 京都清水観音へ毎月17日、に宝鏡寺門跡では参詣したこと。〔宝鏡日記〕（例）きよ水へ御まいり御行水あそばし候〔宝鏡日記万治 3・1・17〕

1226 **こうしんまち** 庚申待は庚申の日に行なう祭。人の腹中に三匹の虫がいて、この夜は人の眠りのすきに天に昇り、罪惡を天に告げ、人は命を奪われるとあって、この夜は寝ないで夜を明かす風習がある。（例）こよひはかうじんにて御まほりあり。〔ゆどの文明 14・9・24〕

1227 **ひぼなおし** 紐直しは童児の付け帯を除いて始めて帯を用いる祝儀。「帯なおし」「帯とき」とも。男女とも9才で行なったが、後には男5才、女7才の11月に行なうようになった。〔宝鏡日記〕（例）さちの宮の御ひぼなをし御いわるこわく御御てうしまいる。〔宝鏡日記慶安 4・11・8〕

1228 **ふかそぎ** 深曾木は3歳から5歳までの間に、髪の手を切り揃えること。〔宝鏡日記・大聖お文〕（例）としの宮の御ふかそぎの御いわるこわく御一ふた御そへ物てうしひさげまいる。〔宝鏡日記・慶安 4・11・21〕欽宮御方御ふかそぎの御祝あらせられ候〔大聖寺倫宮の文政13年3月24日付のお文〕



VIII そ の 他 (§ 194)

- 1229 **ありがとう** 尼門跡では、食事の前と後、相手のあいさつへの返礼その他、しばしば用いる。京ことばのオーキニは使わない。〔大聖〕
- 1230 **うえわたくし** 公からいっても、私情からいっても〔ゆどの〕(例) 三条内ふけふこ  
うぜらるゝ。ちか比ことのはもなき事にて。うへわたくしおどろきおぼしめす。〔ゆどの天正  
7・1・24〕
- 1231 **おお** はいに当る応答語(例) こなたではヤ(商人)が来て鈴を鳴らすと、「オー」と  
いって出たものです。〔大聖寺一老の懐古談〕
- 1232 **おさいしん** 「再進」は「二杯」のこと。〔女中・女言〕(解) 御再進の意か。(同)  
1233 **によそい**「二装い」は二度装うこと〔女中・女詞〕(関) 1234 **みよそい** (三杯)〔女中  
・女言・女詞〕
- 1235 **おそくり** 手遊び〔女詞〕(同) 1236 **そそくり**〔女中・女言〕
- 1237 **おたのもうします** ご免ください。(お頼み申します)〔大聖〕(例) わたくしどもが  
宝鏡寺さんへ参りますときは、今でも、「おたのもうします」と申します。〔大聖一老〕(同)
- 1238 **たのもう**〔大聖〕(例) こなたでも40年前までは、「たのもう」といって人が来ると、  
「どうれ」と答えたものです。〔大聖一老〕(解)「ものもう」と同義。
- 1239 **おそれいります** 尼門跡で一老がゴゼンに用件を申し上げる時、「恐れ入ります」と  
付け加え、ゴゼンのことばをうける時にもしばしば用いる、御所ことばの愛用語。〔大聖・宝  
鏡・宮中〕
- 1239-2 **おひるぶれ** 陛下のご起床の触れ〔宮中〕(例) ご膳係りの女孺がスケ(典侍)さん  
の局へは「もうしょう、おひるでおじゃあと申させ給う」といって触れる(大正時代まで)。  
すると局の家来が 1239-3 **ほう**(「奉」の字音語、「うけたまわる」の意)といって出る(1089参照)。
- 1240 **おもてあそび** おもちゃ〔大聖〕
- 1240-2 **きょうもじ** 「今日文字」は「今日」〔隠語一(室町時代)〕
- 1241 **ごきげんよう** 尼門跡でお次からゴゼンに、あるいはゴゼンどうし「ご機嫌よう」と  
いう。宮中でもオカミに女官が、女官どうし「ご機嫌よう」とあいさつする。〔大聖・宝鏡〕
- 1242 **さま** 𠄎の字形は上達部以上に用いる。後には陛下には「様」(たてさま)、上達部以上  
には「𠄎」(丸さま)、それ以下にはかな書きの「さま」と、身分による区別が行なわれるよ  
うになったが、万治ごろには草体をよしとする風があり、そのころの大聖寺日記にもほとん  
ど「𠄎」を専用した。(例) きん中𠄎〔大聖日記万治 3・1・8〕
- 1242-2 **せんもじ** 先文字は先日、先頃〔隠語一(江戸時代)〕
- 1243 **ひゃっぴき** 金壺歩〔女中・女言・女詞〕
- 1243-2 **ゆうもじ** 夕方。昨夜。〔隠語一(江戸時代)〕

〔付〕 お文の慣用語 (§ 195)

- 1244 **おうけ** 「御請」はお文の内容を確かに申し上げました、という意の脇付け〔大聖寺お文〕（例）右御請のみめでたくかしく〔大正時代の大聖寺お文〕
- 1245 **おさわりさま** お障り、支障の敬語称〔大聖寺お文〕（例）折からの御障り<sup>ぬ</sup>もあらせられず〔明治の大聖寺お文、§ 112〕（関）陛下に対しては 1246「**おささわりさま**」1247「**おもうしぶんさま**」を使う。「お障り<sup>ぬ</sup>」は臣下間のことば〔大聖寺ゴゼン談〕
- 1248 **おおせながし** 「仰流し願上候」はお伝え下さいの意〔大正の女官お文〕（例）乍恐お蝶<sup>ぬ</sup>へも宜しく仰流し願上候〔大正の女官お文、§ 151〕（解）判任官の差出人から高等官にあてたので、「仰」を使用。「流し」は目下へのことば、あて名の使用人に伝えてほしいの意。（関）1249 **もうしいれ**（目上に対していう）。
- 1250 **かたじけながり** 「忝り」（かたじけながり）は忝けなくの意〔明治の大聖寺お文〕（例）御賑々の御沙ため度忝りまいらせ候 かしく〔明治の大聖寺お文〕
- 1251 **そうらいたくそうろう** 「候たく候」は「たく候」のていねいないいかた。〔宝鏡寺紙背お文〕（例）さがへまいり候しるしまでに上まいらせ候たく候〔宝鏡日記明暦 3・3・17 紙背お文〕（§ 121参照）
- 1252 **そうろうべくそうろう** 「候べく候」は、「べく候」のていねいないいかたとしてしばしば用いられた。〔宝鏡寺紙背お文〕（例）此むもじこれハこぞのにてうへ<sup>ぬ</sup>にもあがりの<sup>ニ</sup>て御ざ候まゝ御ぜん＝御あげなされ候べく候〔宝鏡日記明暦 3・2・24 紙背お文〕（§ 100・119参照）
- 1253 **じょうろうのおんなか ごひろう** 「上臈の御中御披露」は宝鏡寺の宮様に仕える上臈にあてて、宮様へよろしく取り次ぎを頼むときのあて名と脇付の古風な書式。これは貴人に直接あて名しないで、そば人にあてる古風による。〔宝鏡日記紙背お文〕（例）上らふの御中御日ろう〔宝鏡日記明暦 3・1・25 紙背お文、§ 117〕（関）1254 **かっしきのおんなか**（喝食御中）〔宝鏡日記明暦 3・1・8 紙背お文〕
- 1255 **ひとびともうしたまえそうろう** 「人々申給へ候」は差出人とあて名とが同等の身分のときの脇付け。どうぞよろしく取次いでくださいの意。〔明治の大聖寺お文〕（例）ながはし<sup>ぬ</sup>人々申給へ候〔明治の大聖寺お文〕（解）同じ字形（§ 100）を古文書学では、1255-2「**まいる 申給へ**」と読む。見出語の読みは大聖寺ゴゼンのもの。（関）1256 **ひとびとおもうしいれ**（人々御申入れ）は目上の人に、1257 **ひとびとごへんじまいらせそうろう**（人々御返事参らせ候）は同輩以下に対する脇付け（§100・112）。
- 1258 **めでかしく** めでたくかしくの省略形。めでたいときにつけるお文の結びの句〔宝鏡日記明暦 3・5・9 紙背お文〕
- 1259 **もうしいれおりそうろう** 「申入居候」は申していますの意。目上に対して使う。〔大正の女官お文〕（例）ふりつゞき其後如何にあらせられ候御事かと御噂申入居候〔大正5・6年の宮中下級女官から上級女官へのお文〕（§ 151）（解）口上の「新年の御祝儀申入れます」に相当する。
- 1260 **もうせとてそうろう** 「申とて候」はだれだれの仰せで申し上げますの意〔宝鏡寺日記紙

背お文] (例) このよし御心えて披露申とて候〔宝鏡寺日記明暦 3・1・18 紙背お文〕 (§ 116)

以上の本稿に所収した語彙 (657語) と前稿の飲食物関係の語彙 (503語) を分類ごとにまとめて語彙数を示すと、次のようである。

I 飲食物 (1) 主食 (米・御飯・餅・麵類) 約129語 (2) 副食物 (総称・豆類・野菜類・漬物類・魚貝・鳥獸その他) 約284語, (3) 調味料 (味噌・醬油・塩) 約30語, (4) 嗜好品 (酒・茶・たばこ) 約17語, (5) 菓子・果物約30語 (6) その他約12語 II 衣類約117語 III 住居・道具類 (1) 住居約20語 (2) 道具約190語 IV 身体病氣約81語 V 人倫・官職約123語 VI 動作・形状 (1) 動作約116語 (2) 形状約60語 VII 年中行事約22語 VIII その他約15語 [付] お文の慣用語約17語 総語数約1,300語。

五十音順 索引 (§ 196)

<b>あ</b>	うすむすび 515	おうっとり 885	おかたさん 932
あがる 1030, 1031	うつうつしい 1153	おうらさん 919	おかちょう 661
あげましゃる 1032	うもじ 915	おうわしき 535	おかみ 934
あげる 1033	<b>え</b>	おうわめし 521	おかみがた 938-2
あさい 1096	えちご 517	<b>おえちご</b> 518	おかみさん 921
あそばされる 1035	<b>お</b>	おえど 829	おかもじ 833, 915-3
あそばす 1034	<b>おあいじろ</b> 519	おえり 831	おかりどこ 842
あぶらとり 504	おあかし 642	<b>おお</b> 1231	おかわほり 775
あもじ 907	おあかり 641	おおう 1049	おかわり 712
あらあらしい 1147	おあくもり 649	おおおち 929	おかんくろ 675
ありがとう 1229	おあさもの 650	おおおもやもや 1181	<b>おきぬ</b> 939
ありき 1036	おあし 707	おおおもやもやもや 1182	おきぬうつし 670
<b>い</b>	おあしのもの 830	おおぎょ 655	おきぬまき 671
いか 636	おあしゃる 1109-2	おおごっさん 922	おきもじ 1158
いしい 1155	おあぶらとり 505	おおじご 923	おきよどころ 616
いしいし 1148	<b>おいきまき</b> 1042	おおじご 923	<b>おくくり</b> 527
いただきもの 1061	おいしい 1154	おおす 926	おぐし 832
いたのもの 506	おいいた 507	おおすもじ 925	おぐしあげ 834
いできもの 826	おいいたしい 1157	おおせながし 1248	おぐしすまし 835
いど 827	おいであそばす 1045	おおちのひと 928	おぐしそろえ 836
いとばい 1149	おいど 828	おおとのあぶら 645	おぐしたれ 1129
いぬ 908	おいとしい 1156	おおとのさん 930	おぐしとり 837
いのこのおいわい 1220	おいとばい 1150	おおどろきさん 1052	おぐだし 1056
いままいり 910	おいとばいさん 1151	おおにぎにぎ 1172	おぐだしもの 1057
いもじさ 1152	おいとばいしい 1160	おおはれ 1161	おくちいわい 1209
いもせ 911	おいぼいぼいしい 1160	おおみやさん 931	おくろ 617, 672
いろねこ 913	おいまき 589	おおもじ 915-2	おくろもの 674
いんごしょさま 977	おいる 1069	<b>おかかえ</b> 522	<b>おけずり</b> 940
<b>う</b>	おいろ 651	おかかり 658	おけた 679
うえさま 914	おいろふで 654	おかくしもの 557	おけたれ 678
うえわたくし 1230	<b>おうえはかし</b> 520	おかくれ 1055	おけんもじ 1108-2
うがい 1039	おうがい 1041	おかけにおい 659	<b>おこし</b> 683
うぐいす 508, 509, 637	おうけ 1244	おかさね 523	おこしのもの 686
うすぎぬ 510, 514	おうしみず 725	おかし 1150-2	おこし 563-2, 692
	おうちつき 1046	おかぞと 660	おこたち 941
	おうつつ 1047	おかた 933	おこまかき 886

御所ことば語彙の調査研究

おごりょう	946	おそそもじ	1170	おなが	718	<b>おふかしき</b>	889
おこんぞ	552	おそでとめ	1216	おなかいれ	547	おふく	569
おこんちょう	665	おそばさん	948-3	おながさお	801	おふくろ	956
<b>おさいしん</b>	1232	おそもうじさま(おそ		おなかめし	548	おふくろさま	957
おさがり	1063	もじさま)	949	おながひよ	558	おふさげ	890
おささわりさま	1246	おそれいます	1239	おなし	1087	おふで	739
おさし	947	<b>おたから</b>	706	おなしする	1088	おえでき	891
おさたのかたがた	1021	おたさん	952	おなつかし	720	おふる	562
おざっし	694	おたたさん	950		720-2	<b>おぼそ</b>	577
おさっと	1165	おたたする	1082	おなで	840	<b>おま</b>	629
おさない	942	おたたみ	715	おなでもの	721	おまえさま	916
おさびさび	1166	おたのもうします		おなら	867-2	おまおもじ	577-2
おさぶらいしゅう	948		1237	<b>おに</b> いさん	965	おまけ	871
おさらし	529	おたむけもの	768	おにぎにぎ	1171	おまし	628
おさわけ	887	おたもじさま	951	おにつかる	1043	おまなか	620
おさわりさま	1245	おたれをあげる	1130	<b>おぬい</b> もの	550	おまめ	1099
<b>おしきたえ</b>	698	<b>おち</b> かちか	1164	おぬる	868	おまめし	549
おしずまり	1065	おちかちかしい	1163	<b>おねい</b> さん	909	おまゆとり	741
おしずまる	1070	おちごさん	962	おねっき	869	おまわし	563, 574, 742
おしたもの	531	おちょうず	852	おねめし	551	おまる	879-2
おしためし	533	おちょうずどころ	624	おねもじ	598	<b>おみ</b> あかし	644
おしつけ	1064	おちる	1083	おねり	599	おみあし	845
おしとね	534, 538	<b>おつき</b> み	1218	<b>おの</b> まつ	722	おみあせ	880
おしまい	843	おっしゃります	1134	<b>おは</b> きがたな	689	おみあわせ	511
おしまつき	700	おつたみ	860	おはぐろする	732	おみおおい	1050
おしまり	1077	おつばがたな	688	おはち	734	おみおあい	735
おしもさま	924	おつむ	862	おはっしもの	850	おみおうぎ	778
おしゃもじ	701	おつむさん	865	おはながら	737	おみおおきい	1178
おじゆく	542-2	おつむり	865	おはもじ	1200	おみおび	575
おしゅす	540	おつめとり	716	おはもの	738	おみかお	881
おじょう	541	<b>おて</b> あそばす	1084	おはやばや	1173	おみかけ	564
おじょうき	717	おでえさん	967	おばんたる	554	おみからだ	881-2
おじょうぐち	630	おてがつく	1085	<b>おび</b> あがり	870	おみからださん	881-3
おしょうぞく	543	おてすまし	621	おひがら	1223	おみくび	882
おじょうばらい	1097	おてつ	541-2	おひしひし	1176	おみこし	1066
おしんじょ	631	おてなが	963	おひたぎ	1221	おみこり	525
<b>おすえ</b>	776, 948-2	おてなし	878	おひつ	736	おみすかし	564-2
おすき	1078	おでもの	849	おひとえ	524	おみずけ	851
おすきさん	1167	おでんち	544	おひなる	1089	おみすかし	530
おすきすき	1193	<b>おとう</b>	619, 853	おひになる	1090	おみつあし	647
おすす	1079, 1222	おとうにゆく	853	おひもじ	1009	おみとり	526
おすすぎ	1080	おとうば	625	おひまち	1215	おみなか	867
おすすり	795	おとおし	878	おひるぶれ	1239-2	おみなかだつ	1044
おすそ	844	おとぎ	1086	おひろい	1037	おみぬぐい	565
おすべり	1125	おときさけ	839	おひろけ	888	おみはぐろ	726
おすまし	1081	おとくび	1162	おひろめ	1098	おみはし	758
おすみ	704	おとこ	542	おひよ	555, 556	おみみふさぎ	1224
おすやすや	1048	おとこへなる	1071	おひろびろ	1177	おみや	764, 846
おするする	1168	おとしめし	964	おひり	1091	おみやごころ	767
<b>おせ</b> せり	705	おとなし	793	おひる	1095	おみやさん	846-2
おせん	848	おとぼし	643	おひるなる	1092	おみやもの	766
おせんす	777	おともじ	964-2	おひろしき	632	おみようがい	1040
<b>おそえ</b> こ	687	おどんちょう	666	おひわだ	561	<b>おむ</b> さむさ	884
おそくり	1235	<b>おない</b> ぎ	627	おひん	1093	おむしけ	895
おそくもじ	851-2	おなか	528, 545, 866	おひんなる	1094	おむす	532

おめぐり 743, 748, 872  
 おめぐりぼう 749  
 おめし 567, 684  
 おめしもの 569  
 おめみえ 1101  
 おめもじ 1100  
 おめんちょう 668  
 おもいのたま 769  
 おもうき 906  
 おもうさん 966  
 おもうしぶんさま 1247  
 おもうもう 905  
 おもじ 573  
 おもせいろ 579  
 おもてあそび 1240  
 おもなし 1179  
 おもやもや 1180  
 おやく 872-2  
 おゆがみ 702  
 おゆすぎ 595  
 おゆるみ 702-2  
 およしよし 892, 1183  
 およしよしさん 1184  
 およづけ 1185  
 およる 1073  
 およるのもの 536, 614  
 おらっそく 638  
 おりょうし 817  
 おろう 640  
 おわきがたな 690  
 おわし 708  
 おわたまし 1103  
 おわやらかなもの 602  
 おんおもじ 576  
 おんぞ 582  
 おんふたところ 912

か

かいおおい 1050-2  
 がいきけ 896  
 かいづくし 1051  
 かいとり 583  
 かいねり 550  
 がいびょう 897  
 かいまき 615  
 かかさま 917, 958  
 かたじけながり 1250  
 かちょう 662  
 かつう 1217  
 かつしき 967  
 かつしきのおんなか 1254  
 かとり 6101  
 かねあげる 733

かぶかぶ 898  
 かみさま 959  
 かもじ 770, 883-2, 918, 960  
 かやさ 663, 833-2  
 からこ 773  
 かりや 874  
 かわほり 773  
 かんくろ 677  
 かんじょ 226  
 かんらく 893

き

きあい 899  
 きくわた 1192  
 きっしょう 1211  
 きぬのいえ 664  
 きみさん 969  
 へきみさん 971  
 きゃもじな 1186  
 きやる 1143  
 きよおもじ 1240-2  
 きよし 656  
 きょうがる 1053  
 きょくんな 1054  
 きょしなる 1072  
 きょしん 1068  
 きょみずへおまいり 1225  
 きり 693  
 きるもの 584  
 きんちゅうさん 935

く

くぎょう 782  
 くさぎぬ 512  
 ぐしん 1104  
 くす 1105  
 くださります 1135  
 くだされもの 1059  
 くちがわり 781  
 くもじ 1106  
 くもじながら 1187  
 くらびらき 1213  
 くろ 673  
 くろと 634  
 くろもじ 784  
 くろもの 676

け

げげ 812  
 げげをする 1107  
 けさん 1108  
 けたり 680  
 けたる 1131  
 けたれ 681

けもじ 1187-2

こ

ごあしゃる 1109  
 こうか 623  
 こうがいのはし 760  
 こうしんまち 1226  
 こうばいのはし 761  
 こうがい 797  
 ごかんたいながら 1190  
 ごかんらく 894  
 こがね 713  
 ここもじ 972  
 こがらし 750  
 こぎいた 785  
 ごきげんさん 1188  
 ごきげんよう 1241  
 ごきじょうさん 1189  
 こぎのこ 786  
 ここもと 974  
 ごしゅらい 1111  
 ごしょさま 975  
 こしらえる 1110  
 こすぎ 818  
 ごぜんすべる 1125-2  
 こたか 819  
 こたち 943  
 こち 950  
 ごっさん 967  
 ごだんこう 112  
 こなた 978  
 こなたさん 979  
 ごねんき 1191  
 このごしょさま 996  
 ごふく 570, 585  
 ごふくさし 1075  
 ごふくっし 1076  
 ごふくめ 546-2  
 こぼこぼ 814  
 こまつ 787  
 こもじ 981  
 ごりょうにん 982  
 ごれんちゅうさん 920  
 こんごう 813  
 ごんすけさん 984  
 ごんすもじ 983  
 こんもじ 1191-2

さ

さかゆひく 1113  
 さぎちょう 1214  
 さげおもじ 578  
 さげもの 1058  
 ざっし 695, 696, 985  
 ささめいう 1115  
 ささごと 1114

さしあい 874  
 ～さま 1242  
 ～さん 986

し

しおしおえ 1116  
 しきたえ 699  
 しし 854  
 しじ 900  
 ししじ 745  
 ししをする 859  
 しずまる 1074  
 したたむる 1119  
 したためる 1118  
 したのもの 588  
 しとね 539  
 しほう 793  
 しほえ 1117  
 しまかけ 590, 603  
 しやもじ 703  
 ～しやる 1120  
 しゆくしん 1208  
 しゆしょう 1207  
 しゆしょお 937  
 しゆんかん 788  
 じょうろうのおんなか 1253  
 ごひろう 746  
 しらじ 591  
 しろかさね 714  
 しろがね 901  
 しん 790  
 じんこばこ 1062  
 しんじられもの 987  
 しんすもじ 1121  
 しんぜられる 991  
 しんもじ 988  
 1122-2, 1122-3

す

すいば 820  
 すえつむくさ 653  
 すかすか 1175  
 すぎすぎ 821  
 すきと 1192  
 すけ 889  
 すそ 847  
 すなわち 1194  
 すべす 1123  
 すべる 1124  
 すましはり 596  
 すましもの 592  
 すます 1126  
 すみはぐろ 726  
 すもじ 1127

御所ことば語彙の調査研究

ずり	791	つたない	1197	ねたもじ	1198-2		
すりすり	744	つたみ	861	ねもじ	597, 764	ほ	
するする	1169	つばねぐち	633	ねもじのはし	762	ほう	1239-3
せ		つむり	864	ねもじはし	763	ほうぎ	587
せきもり	792	つわ	920	ねり	600	ほそひろめ	719
せもじ	1127-2	て		ねりがい	805	ぼぼ	903
せんもじ	991-2, 1242-2	～であらしゃる	1132	ねんもじ	601, 1191-3	ぼんぼり	780
そ		～でござります	1133	の		ま	
そうらいたくそうろう		～てしんぜられる	1122	のもじ	806	まいらせらるる	1144
	1251	てなし	878-2	は		まいる もうしたまえ	1255-2
そうらうべくそうろう		てなれぐさ	779	はくちょう	807	まけ	877
	1252	てもと	759	はすのみ	746	～ましゃる	1145
そえこ	691	てらさげ	1136	はちのみ	751	ますぎ	752
そそくり	1236	てんもく	789	はつはな	879	まつかさね	604
そち	993-2	と		はなちがみ	841	～まるさん	1016
そなた	993	とうぎん	938	はもじ	730-2, 707-2	まるわた	606
そなたさん	994	とおさん	1001		1199	まわしぎ	753
そのごしょさま	995	とのあぶら	646	はやす	1140	み	
そもじ	992, 1194-2	とのさん	1002	はやばや	1174	みかしら	1017
た		ともじ	1137, 1137-2	はるのみやさん	1007	みぐり	754
だあさ	955	とりとり	944	ひ		みこし	1067
たあさん	953	どんちょう	667	ひき	822	みじかひよ	560
だあさん	954	な		ひきあわせ	823	みすいり	1076-2
だいさま	997	ないすけ	996	ひくい	1201	みずくき	740
だいすけ	927	なおす	1138, 1139	ひさげ	808	みずくら	796
たえだえしく	1195	なかい	1003	ひとえぎぬ	516	みずとり	667
たた	950-2	ながかつら	772	ひとびとごへんじ		みだいのかた	1019
だだ	950-3	ながさお	800	まいらせそうろう	1257	みつあし	648, 810
たとうがみ	697	ながつけ	771	ひとびとおんもうし		みなかま	1018
たのむのごしゆうぎ		なかつぼ	635	いれ	1256	みやこいろ	652
	1218-2	ながはし	1005-2	ひとびともうしたま		みやまわり	731
たのもう	1238	ながはしさま	1005	えそうろう	1255	みやすどころさん	970
たまのいけ	794	ながはしのつぼね	1004	ひのいた	581	みよそい	1234
たまわりもの	1060	ながひよ	559	ひぼなおし	1227	む	
たもじ	840-2	なかぶか	553	ひめ	1010	むつかしい	1203
たらちね	961	なかぼそ	799	ひめご	1011	むつかる	1146
たれ	682	ななくさ	1212	～ひめさん	1013	むもの	571
たれる	1128	ななこ	802	ひもじ	1008	むらさき	1012
だんこう	1112-2	ならしゃる	1142	ひゃっびき	1243	め	
ち		なわたきぬ	513	ひろい	1038	めぐり	755
ちちご	999	に		ひろう	1038-2	めぐりこぎ	756, 877-2
ちゅうぎょ	657	においかけ	803	ふ		めぐりぼう	757
ちょうもく	709	においもの	804	ふうもの	809	めしもの	572, 811
ちらと	1196	にがにがしい	1198	ふかさぎ	1228	めす	572-2, 685
つ		にくろおど	1006	ぶくしゃ	1014	めでかしく	1258
ついまつ	723	によそい	1233	ふたの	612	めもじ	1102
つおなり	586	ぬ		ふたふた	1202	めゆい	608
つぎ	875	ぬきすみず	729	ふもじ	809-2, 961-2	めんちょう	669
つきのもの	876	ぬもじ	1006-2	へ		もうしいれ	1249
つくつく	798	ね		べえ	1015		
つくるかね	729						
つけがね	728						

もうしいれおりそう		ゆ		よだつ	1023		
ろう	1259	ゆうもじ	1243-2	よほう	814-2	わ	
もうすきた	1020	ゆくえ	710	よるのもの	537, 613	わかご	945, 1028
もうせとてそうろう		ゆすりつき	815			わかごっさん	1025
	1260	ゆもじ	609	ら		わかさん	1029
もうもう	904	ゆめがましい	1205	らっそく	639	わかとのさん	1026
や		ゆめゆしい	1206	り		わかゆのごぎうずい	
や	1022	よ					1210
～やす	1204	ようかなえる	856	りょうし	816	わこ	1027
やまぶき	605	ようじ	877-3	りょうしばこ	825	わたくしにまいる	858
やもじ	1022-2	よそよそ	626	りょうそく	711	わたす	1141
やわやわ	546, 824	よそよそへまいる	857	りょうとう	1024	わもじ	894-2, 972-2
				りんもじ	1206-6	わらわ	973

## Researches on the vocabulary of Court lady speech

### Part II – Clothing, Instrument etc.

Y. Inokuti    K. Nakai    R. Horii

This paper is the sequel of the researches on the vocabulary of Court lady speech in the imperial palace and in Kyoto Amamonzeki nunnery. The vocabulary of Part II contains the words of Clothing, Instrument, Body, Health and Illness, the names of the maid of honour, of the annual observances in the Court and the adjectives, the verbs of Court lady speech, the words and phrases used in the letters of Court lady.